





心の糧

十二使徒会補助

アルビン R. ダイアー

現 代の若者は将来、驚くべき出来事と動揺に遭遇するであろう。若者の関心は大衆や事のなり行きにまかせるのではなく、正しい道徳と霊的なバランスを保つことに向けられなくてはならない。そのようなバランスについての一節を挙げてみよう。

いかに無害に見えようとも、

「理性を弱め、良心をにぶくし、神の存在をあいまいにし、霊的な事柄の味わいを奪い、心を抑えてしまうほど肉欲を増すものは何であっても、それは罪である。」(スザンナ・ウェスレー、18世紀の英国宗教改革者ジョン・ウェスレーの母)

人間存在の意義と目的は、性や欲求よりもはるかに深遠な力により定められている。人間は、神が与えたもうた教えを固く守ることにより、神との関係を保つ必要のあることを感じる。この感情から、人間は単に生物学的に死んでしまう変わりやすいものではなく、永遠の存在であるという信仰と確信が生まれるのである。このしっかりと極められた真理こそ暗黒を制する光のバランスをつくり出すことができる。

— も く じ —

| | |
|-------------------|-----------------------|
| 新たに組織された大管長会 | 59 |
| キリストの愛 | ジョン W. ベニオン 64 |
| 態度と才能 | ジョージ アルバート スミス Jr. 66 |
| 主の宮居 | ジョン A. ウイツツオー長老 68 |
| さあ、最良に活用しなさい | リチャード L. エバンズ 69 |
| 改宗 | サミュエル L. ホームズ 70 |
| 系図 | |
| 系図：人類に平等な機会を与えるもの | デビッド H. プラット 72 |
| 管理監督のページ | |
| あなたの監督 | ジョン H. バンデンバーグ 73 |
| 聖典を生かす | エレイン・キャンオン 75 |
| 証 | ヒュー B. ブラウン 76 |
| 日曜学校 | |
| 効果的な伝達方法 | トーマス S. モンソン 80 |
| 伝道部長メッセージ | ウォルター R. ビルス 84 |
| ローカルニュース | 85 |
| 己れをも許すこと | リチャード L. エバンズ 裏表紙 |

子供のページ

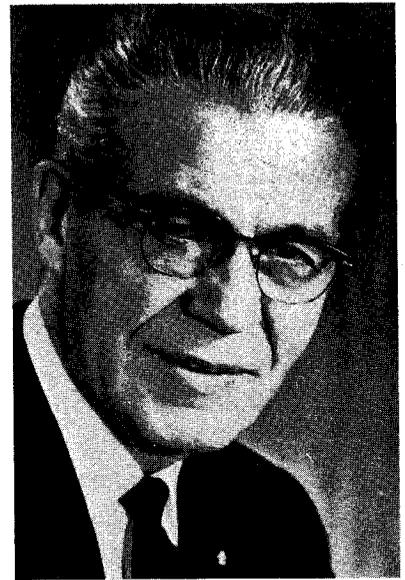
| | |
|---------|-----------------|
| かくれんぼ | ルシル C. リーディング 7 |
| 魔法(まほう) | ジョージ D. デュラント 8 |

今月の表紙

ジョセフ・フィールディング・スマイス大管長は、1月デビッド O. マッケイ大管長の死去に伴い、教会の大管長としてまた主の予言者として選ばれた。長年教会の業に仕え、準備の後、今日の高い職に就かれた。今月号の「新たに組織された大管長会」の記事で、新大管長とハロルド B. リー、ナサン エルドン タナー副管長を紹介している。



(左) 教会の大管長会第一副管長に選ばれたハロルド B. リー副管長
(中央) 教会の予言者および大管長に新しく聖任されたジョセフ・フィールディング・スミス



(右) 第二副管長に選ばれたナサン・エルドン・タナー副管長

新たに組織された大管長会

末日聖徒の愛するデビッド O. マッケイ大管長の死去に伴い、1970年1月23日、主の予言者、大管長が選ばれた。

新大管長は93歳のジョセフ・フィールディング・スミス長老で、十二使徒評議員会会長をつとめ、新たに聖任された高い召しを受けるにふさわしい備えをしてきた方である。我々はこの年老いた神の僕の前に立つと畏敬の念を感じる。驚くべき方法で、主は彼を守られた。スミス大管長は、教会で長い間高い召しにあり、教会幹部として仕えてきた。主の御業のために何万マイルを旅し、大いなる聖典の知識と福音の教えを説き、多くの書物や記事を記し、特に、主の教会に対して確固とした、妥協のない、一貫した献身を続けた人である。

スミス大管長は第一副管長として、ハロルド B. リー長老、第二副管長としてN. エルドン タナー長老を選んだ。

ハロルド B. リー副管長は1899年3月28日サムエル M. およびルイザ・ブリガム・リーの間にアイダホ州クリフトンで生まれ、兄弟と共に農家に育った。

1920年西部諸州伝道部に召されるまで、彼はアイダホ州オックスフォードで校長を勤めた。

1923年ファーン・ルシンダ・タナーと結婚し2人の娘をもうけた。1962年妻は死去し、1963年フレダ・ジョアン・ジェンセンと再婚。

1932年リー長老はソルトトレーク市理事に選任され、後に官

職についた。

一方、教会においても忠実な働きを示し、1930年パイオニア・ステーキ部長に召された。リー長老の指導のもとに、このステーキ部はまさに開拓者のステーキ部であった。福祉計画を確立し、それが全教会のモデル計画となったのである。1936年大管長会は彼に教会福祉計画の専務就任を要請した。この職に在任中、すなわち1941年4月、十二使徒評議員会に召された。使徒として彼は指導性と力を発揮し、常に重責を担ってきた。リー副管長は長年若人の信頼できる支持者、代表者として活躍してきた。

大管長会N. エルドン・タナー第二副管長は、カナダへ移住した末日聖徒移民団出身である。彼の両親すなわちなサン・ウィリアムおよびサラ・エドナ・ブラウン・タナーは、幌馬車に乗ってカナダへ移住し、それが新婚旅行であった。母親は初子を生むためしばしの間ソルトトレークに帰り、1898年5月9日に生まれたのがナサン・エルドンであった。

彼は農場に育ち、牛にひかせて畑を耕したりなどした。タナー長老は神の造りたもう物を愛し、特に人を愛することを学んだのであった。学校教育の機会には恵まれなかった。

1919年12月20日、サラ・イサベル・メリルと結婚し、現在五人の娘がいる。

タナー長老は1960年10月の総大会で十二使徒評議員会補助

に聖任され、その後西ヨーロッパ伝道部を管理するよう召された。1962年10月の総大会で十二使徒評議員として支持され翌年の10月デビッド・O・マッケイ大管長の第二副管長に選ばれた。

人生の指標として、タナー副管長はこう述べている。「主により召され、主が祈りに答えたまい、主が生命と救いの計画を与えたもうたことを知ること程、世の中に大いなるものはない」

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は7月19日で94歳になる。故デビッド・O・マッケイ大管長が使徒に召されて4年後の1910年4月7日、使徒に聖任され、十二使徒評議員となった。使徒としての在任期間はこの神権時代最長、十二使徒評議員会会長としては一番の高齢である。また十二使徒評議員会会長と副管長兼任は彼が初めてであった。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は1876年、ソルトレーク市の開拓者の家に生まれた。聖徒たちが谷に到着して29年後、ブリガム・ヤングが大管長の時である。それは苦しい試練の時代であった。ティラースピルの農場で兄弟と共に農業を手伝い、ジョーダン川の近くで牛の番をしながら彼は貧困のなかからやりくりの仕方や忍耐を学び、勤勉と儉約を身につけ、学問につとめた。この時代を回顧して彼の父はこのように語った。「……わたし、いや、みんなが働いていた。力の限り心と体一つにしてみんなで頑張らなくてはならなかった。そのようにみじめな状態でもうすぐクリスマスを迎えるというある日、わたしは言いようのない気持ちを胸に、古びた家を出た。子供たちに何かをしてやりたかった。クリスマスの日だけはいつもと変ったことをして子供たちを喜ばせてやりたかった。しかし、使えるお金は1セントも手元になかった。繁華街のウィンドーをながめ、アミュゼン宝石店や町の店を一軒一軒のぞいて歩いたが、わたしはとうとう椅子に腰をおろし、人目をしのんで子供のように泣いた。やがて痛む心も涙に洗われ、出てきた時と同じに手ぶらで家に帰った。……」

しかし、逆境は善人を強くし、強き者を偉大にする。そのうえスミス家には伝統と高潔、信仰、献身という富があった。それはスミス家に受け継がれてきた遺産であった。スミス大管長の父ジョセフ・F・スミスは、カーセージの牢獄で弟の予言者ジョセフと共に殉教したハイラム・スミスの息子である。ジョセフ・F・スミス大管長は8歳の時にミシシッピ川の西岸、モントローズからミズーリ川まで、幌馬車をひいて旅をした。その2年後彼が9歳の時、家族は幌馬車で1600キロの平原や山を越え、ソルトレーク盆地に着いた。母親がなくなったのは1852年、彼が13歳の時であった。彼は15



家庭で写真の注文に応ずるジョセフ・フィールディング・スミス大管長と妻ジェシー・エバンズ・スミス姉妹

歳でハワイへ伝道に召され、再びハワイで、またその後英国で二度、伝道をし、ヨーロッパ伝道部長として働いたのち、大管長会に召された。大管長になったのは1901年である。ジョセフ・F・スミス大管長については、「立派な父親、偉大なる義の説教者であり、真実の人として、我々の最も気高い理想を具現した。その信念は、敵味方ともに打ち破り得ない真理への献身と忠実に裏付けられていた」と書かれた。

この気高く偉大な父親と、同様にすばらしい霊的な母親ジュリア・ラムソン・スミスのもとで、ジョセフ・フィールディングは主や教会に対する信仰と愛をはぐくんでいった。福音の原則、すべての善きもの、真実なことは幼い頃から心に固く植えられ、年月と共に強くなっていった。

ジョセフ・フィールディング・スミスの教会に対する奉仕は不朽である。これまでの生涯を通じて、教会は彼の生活そのものであった。宣教師、教会歴史記録者、書記、理事、系図協会会長として、また中央管理会会員、神殿長、作家、編集者、教育者、実業家、十二使徒評議員、十二使徒評議員会会長、副管長として、主のみわざ進展のために休みなく献身してきた。

スミス大管長の生涯は、馬車の時代からジェット機の時代にわたっている。これまでに一般大会での話は100を越え、ほぼ5千のステーク部大会に出席した。セント・ジョージ、ソルトレーク、ハワイ、アルバータ、アリゾナ、アイダホ・フォールズ、ロスアンゼルス、ロンドン、オークランド等9つの神殿の献堂式に臨席し、何十という伝道部を訪問した。

まもなく94歳を迎えようとしているスミス大管長は、妻のジェシー・エバンズ・スミス姉妹と共に簡素なアパートに住



記者会見で新しい召しについて語るリー副管長、スミス大管長
タナー副管長

み、教会本部の建物まで徒歩で通っている。数多くの会合、約束、会見、事務などの合間には、聖典を勉強したり、タイプライターに向かったり、教義の質問に答えている姿がよく見られる。

全教会員が、身近に彼を知ることができたならと思う。多くの人々に厳しくがん固だと見られているが、真理と正義にかけてはまさしくそうである。彼においては、神の御言葉に一片の妥協もない。真理は真理であり、神のいましめには斟酌も遠慮もできない。父親について言われた言葉はそのまま彼に言われるであろう。「その信念は、敵味方ともに打ち破り得ない真理への献身と忠実に裏付けられている」。スミス大管長は、主の御言葉や、主が予言者によって語り啓示したもうことは、人の都合や人の気持によって少しでも変えたり修正したりできないと信じている。回復された福音のすべての原則を、妥協も懸念もためらいもなく、文字通り完全に受け入れているのである。ヨシユアも「……ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」（ヨシユア24：15）と断固として叫んだ。

しかしジョセフ・フィールディング・スミス大管長には、あまり知られていない一面がある。それを知らなくして、真実の彼を知ることではできない。その一つの例を見てみよう。

彼は愛深く暖かい夫、父親、祖父である。5人の息子はみな伝道に出、子供たちはみな神殿結婚をした。最近大管長は子供たちについてこう語った。

「私には11人の子供がいるが、この現在までみんなが信仰厚い教会員として活発に教会に集っている。教えられたように…。彼らは従順な子供だった。彼らは永遠に私と共にあり、

私の王国の礎となろう」。

彼の子孫は11人の子供のほかに、29人ずつ男女あわせて58人の孫、21人ずつ男女あわせて42人の曾孫、あわせて111人である。そのうち13人の孫は伝道を終え、すでに結婚している20人の孫はみな神殿での結婚をした。家族をよく知っているリチャード L. エバンズ長老は、「この家族の信仰と献身、市民としての正しく正直な生活態度は、幼い頃から信仰厚い両親に教えられ訓練されてきたたまものである」と書いている。

スミス大管長の誕生日に近い土曜日を家族のための日とすることは恒例となっている。この日に全家族はソルトレーク市の公園に集まり、ゲームや話や歌に興じ、夕食を共にする。

その日の最大行事は「スミスおじいさん」の話と、ひとりひとりに贈られるプレゼントである。自分の誕生日に子供や孫たち全員にプレゼントすることで、111の誕生日を覚えるという難問題が解決されるわけである。

教会の責任を遂行するスミス大管長のかたわらには、ほとんどいつも愛する伴侶ジェシー夫人の姿が見える。夫人は輝かしいオペラ歌手の座を、彼女自身の言葉で言えば、ジョセフ・フィールディング・スミスの妻という「もっと大切な生涯の仕事」のために、なげうった。ウィットに富んだ快活で明るい性格と、人をほほえみに誘う彼女の笑顔は、緊張と重荷を和げる清涼剤である。時たま大管長の話のあいまに、乞われて歌うこともある。夫人はタバナクル聖歌隊のソリストである。スミス大管長も歌が上手で、夫妻共にピアノの前に腰かけながらデュエットを歌っている姿は、心なごむ風景である。

スミス大管長が数多くの著書を持つことは全教会員の知るところである。しかし、4編の讚美歌を作詞したことはあまり知られていない。

ジョージ D. パイパー作曲による「Does the Journey Seem Long?」は最近タバナクル聖歌隊により放送された。

また、アレクサンダー・シュライナー作曲の「We are Watchman on the Tower of Zion」は、1963年オークランド神殿の定礎式でスミス姉妹をソリストとし、タバナクル聖歌隊により歌われた。

夫妻の生活は愛と尊敬と調和に満ちている。ジェシー夫人は、最近夫について語った。「世界一親切で思いやりの深い人です。私を怒ったり、冷たい言葉を口にしたりということは一度もありません」。その言葉についてスミス大管長は、「妻は私を怒らせるようなことをしたことはありません」と答えている。

スミス大管長はすばらしいユーモアのセンスの持ち主であ

る。それは彼を知る人がすべて認めるところである。彼の家の台所の壁にかかっている飾り板に、このような言葉が書いてある。

「家ででの夫の発言は、仕事での発言にあらず」

「わが家の主婦は立派なマネージャーです」と保証する大管長に答えて、夫人は言っている。「はい、けれどマネージャーは自分の場を心得ています。去年の夏、秘書の方がお休みのため、手伝いで主人の事務所に行きましたら、私の肩をたたいて『かあさん、これだけは忘れないで下さいよ。ここでは家の中のことを話してはいけません』と言われました」と。

スミス大管長は非常なスポーツ愛好家である。若い時には時間があるといつでも野球などのスポーツに興じ、近くのきたない川で泳ぎを覚えた。チームのレギュラーとしてハンドボールをやり、特に球技は何でも得意であった。子供や孫の何人かは立派な運動選手である。

スミス大管長と故デビッド O. マッケイ大管長の友情は、心暖まるものである。

マッケイ大管長が入院する二、三年前、副管長と彼が儀式を施すために呼ばれた。その知らせがスミス大管長に届いたのは、アイダホ州ルイストンのステーク部大会の席上であった。彼は午前の大会が終るとすぐに出発し、車を夜通し走らせて、午前3時に到着した。共に主に仕える旧友として、二人は互いに名前を呼び、いだきあった。

首尾一貫性はスミス大管長にめだつ徳である。これまでの人生を通じて、彼の信ずるところと、その教えには矛盾がない。スミス大管長について書かれた34年前のこの言葉は、インクの跡がまだ乾かぬかのように今もふさわしい。「今までに最も印象深い教えと言えば、『義は国を高めるが、罪は人の恥辱である』という教えである。ジョセフ・フィールディングは、人に嘆き、不安をもたらす破戒や不正と戦う戦士であり、人間を愛し、自ら説く原則が救いの力を持つという気高い信仰を持っている。彼の努力の底には、人類に尽したいという深い望みがある。彼を知る人は、一瞬たりといえども、彼の述べる言葉にこめられた正直な思いと知恵を疑い得ないであろう。墮落が人々の間に広まれば、その社会、教会、組織の永続はほとんど望めない。これは、彼の説教の根本である。

ジョセフ・フィールディング・スミスには、健全な生活に欠くことのできない、正直、慈愛、神をおそれ、神に頼る心、強健な知力、頑健な体、確固たる信念、終始ゆるがぬ目的、健全な精神、いさぎよく気高い行ないなどが、自然と調和して備わり、高潔な人格を示している。彼は偉大な使徒の職にふさわしい資質を豊かに恵まれた人である。」



語り合う、スミス大管長(左)、タナー副管長、リー副管長

1966年、前大管長会のマッケイ大管長、ヒュー B. ブラウン、N. エルドン・タナー副管長はジョセフ・フィールディング・スミス大管長について、大小にかかわらず彼の果たす仕事は、その働きを見るすべての人の信頼を得る、と語った。彼は自分の楽しみよりは主のみわざのために、喜んで海や陸を旅行した。時代は馬車からジェット機に移ったが、彼はそのどちらも好んだ。教会や教義の知識において、彼に勝る人は少ないであろう。彼は並ぶ者の少ないすぐれた学者であり、その著作物は世界中の人々の信仰を強めている。

教会指導者としてのつとめに対する忠実さは、一步も妥協を許さない。彼はあらゆる努力を傾けて教会員を守ってきた。彼ほどに大管長に忠実であった人は、おそらくいないであろう。

彼に従って働いた人々はみな、彼の親切と思いやりをあげている。スミス大管長は指導者として、自分がいやな仕事は人に頼んだことがないと言えるであろう。

実行力をもって、教会の標準を守るよう警告する思いやり深い勇気の人、しかし誤りを犯して真に悔い改めた者を心から許す人、スミス大管長の中には、敬神の心から生じる平安「みたま」の証から来る確信、自己訓練のたまものとしての義務に対する忠誠がある。

彼の祈りを聞いた人は、「誠実に、忠実に」という言葉をよく耳にしたことであろう。これは彼の生涯を集約する言葉である。

スミス大管長は、実に地上における主の王国の指導者にふさわしい人格を備えた人である。世界中の教会員は彼を神の予言者として歓迎し、支持するものである。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の略歴

| | | | |
|------------|---|------------|---|
| 1876年 | 7月19日ソルトレーク市に生まる | 1936年 | 「人類の進歩」を出版 |
| 1898年 | ソルトレーク・ステーク部MIA管理会員に任命さる | 1938年 | 「ジョセフ F. スミスの生涯」を出版 |
| 1898年 | ルーズ E. シャートリフと結婚（夫人は1908年4月逝去） | 1938年 | 「予言者 ジョセフ・スミスの教え」を出版 |
| 1899~1901年 | 英国諸島で伝道 | 1938年 | ジェシー・エラ・エバンズと4月に結婚 |
| 1901~1910年 | ソルトレーク・ステーク部パートタイム宣教師として伝道 | 1939年 | ヨーロッパの伝道部を訪れ、英国諸島を除くヨーロッパ全土からのアメリカ人宣教師引き揚げを指揮する |
| 1903年 | 「トプスフィールドのエゼル・スミス、及びスミスタ家のこと」出版 | 1942年 | 「回復された福音の原則」（ドイツ語）を出版 |
| 1903~1919年 | YMMIA中央管理会会員として働く | 1942年 | 「時のしるし」を出版 |
| 1903年 | 再組織末日聖徒イエス・キリスト教会のリチャード C. エバンズと共に「血の贖いと多妻結婚の起源」を出版 | 1944年 | 「万物の回復」を出版 |
| 1904年 | ソルトレーク・ステーク部高等評議員となる | 1945~1949年 | ソルトレーク神殿長となる |
| 1906年 | 教会歴史記録者の補助に任命さる | 1951年 | 6月4日、ブリガム・ヤング大学より名誉文学博士号を受ける |
| 1907年 | 「再組織末日聖徒イエス・キリスト教会の起源と継承権の問題」を出版 | 1951年 | 4月、十二使徒評議員会会長となる |
| 1907年 | ユタ系図協会の書記、理事に指名さる | 1953年 | 「教会歴史と近代の啓示」（全二巻）を出版 |
| 1908年 | エセル G. レイノルズと結婚（夫人は1937年11月に逝去） | 1954年 | 「人、その起源と行末」を出版 |
| 1909年 | ユタ系図協会の図書館長及び会計に指名さる | 1954年 | 「救いの教義」（第一巻）を出版 |
| 1910年 | 使徒に聖任され、十二使徒評議員会に入る | 1955年 | 「救いの教義」（第二巻）を出版 |
| 1910年 | 「ユタ系図、歴史マガジン」初代副編集長、営業部長となる | 1955年 | 日本伝道部を訪れ、韓国、沖縄、フィリピンを伝道の地として奉獻し、日本伝道部を北部極東伝道部とし、新たに南部極東伝道部をもうけた |
| 1912年 | ブリガム・ヤング大学理事に任命さる | 1956年 | 「救いの教義」（第三巻）を出版 |
| 1912年 | 「万人の救い」を出版 | 1957年 | 「福音の質疑応答」（第一巻）を出版 |
| 1915年 | ソルトレーク神殿管理会会長会副会長となる | 1958年 | 「福音の質疑応答」（第二巻）を出版 |
| 1917年 | 教会教育管理会会員となる | 1959年 | ニュージーランド、オーストラリアのステーク部伝道部訪問 |
| 1921年 | 教会歴史記録者となる | 1960年 | ユタ州国家警備隊名誉代将に任命さる |
| 1922年 | 「教会歴史粹」を出版 | 1960年 | 「福音の質疑応答」（第三巻）を出版 |
| 1924年 | 「予言者エライジャとその使命」を出版 | 1960年 | 南アフリカの伝道部訪問 |
| 1927年 | 「死者の救い、系図、神殿の儀式に関して」を出版 | 1963年 | 「福音の質疑応答」（第四巻）を出版 |
| 1931年 | 「完成への道」を出版 | 1965年 | 10月29日、大管長会副管長に指名さる |
| 1934年 | 系図協会会長に指名さる | 1966年 | 「福音の質疑応答」（第五巻）を出版 |
| | | 1966年 | ブリガム・ヤング大学図書館に収集されたアメリカにおける教会歴史の資料コレクションに名前を付される |
| | | 1970年 | 教会第十代大管長となる |

キリストの愛

ジョン W. ベニオン

末 日聖徒の特徴として、他と最も区別されるべきものは隣人愛です。イエスは神と人とを愛することは最も大きな戒めであると教えられ、また使徒パウロは愛に代ることのできるものはないと強調しています。

キリストの愛という意味は、什分の一、知恵の言葉、断食などのような具体的な原則ほどはっきりしていません。愛を定義することがむずかしいということには、愛にはいろいろな種類があることにも原因があります。たとえば、キリストの愛は男女が恋をする時の力強く感情的で物理的な引き付ける力といったものではありません。これはだれしもが認めるところです。

しかし、一般に人々はキリストの愛を友情や家族の愛と似たものだと考える傾向があります。私たちは日常の経験、価値観、特別な愛着から家族や友人に積極的な感情や暖かく親しい感情を持っています。仮に、キリストの愛を持つことが家族や友人に持つと同じ感情をすべての人に対して持つことだと考えるとしたら、この原則はほとんどの人にとって手の届かない理想になると思われれます。では、どのようにすれば愛する人と同じように敵を愛することができるのでしょうか。どうすれば、私たちに無関心な人や敵意を示す人に暖かく親しい感情を持つことができるのでしょうか。

キリストの愛は、友情や家族の愛と同じものではありません。感情に基づくのではなく、意志に基づく行動なのです。私たちは感情よりも意志の方をよりよく支配できます。私たちが嫌ったり、悪意を示す人に暖かい感情や積極的な感情を持つことはできないかも知れませんが、そういう人に好意を示すことはできます。好意を持つとは、自分の感情に関係なく他人に対して心からの関心を行動に表わすという意味です。すべての人は神の霊の子供であって、道徳的、霊的、知的に非常な成長の可能性を持っているということを信じてこそ、この好意を示すことができます。ですから、人は現在の状態

だけでなく将来に可能性を秘めているということからも、はかり知れない価値があると言えます。

末日聖徒は、たとえある人々がごく普通のこととして行なっていることに落胆を覚えたとしても、すべての人の価値と尊厳を心から尊ぶべきです。福音を受け入れた時に、私たちは神のすべての子供が自分の可能性を知ることができるように全力を尽して援助すると約束しました。この約束が全人類に対する好意の根拠になっています。ある人に暖かく親しい感情を持っていなくとも、関心を示したり良かれと思ってすることは、意志を支配することだと私は思っています。けれども、悪意に満ちた人、好感を持たない人に会うと、時として私たちの感情は消極的になります。大切なことは、たとえ好きでない人であっても、友人や自然と心ひかれるような人に対すると同じようにキリストの愛や好意を示すことができる、あるいは示すべきであるということです。

この点について具体的に考えてみましょう。それは賢母と子供たちの関係です。母親は子供達の幸福に非常な関心を持っているものです。母親はいつも子供に一番良いと信じることをします。子供に対する母親の感情は通常非常に暖かく積極的なものです。けれども一番良い母親は時々子供を叱ります。感情は決して一定しているものでなく、時として子供をやっかいものに思うことがあります。子供によって、最も愛の深い母親にさえ時々見られる消極的な感情が刺激されることもあります。良い母親は子供に怒りをおぼえたり、不満に思っても、子供に必要なことをしてやります。母親の行動は子供に対してどのように感じていようと常に子供の幸福を思う責任感に基づいているのです。おなかが空いたら、食物を与え、危険な目に合っていたら、助けに行きます。

もう一つの例は優秀な医師、弁護士または教師と、患者、依頼人、または生徒の関係です。私たちが医師の所へ行く時、医者が自分を好きか嫌いかなどと考えないで治療を受けに行

きます。その医者に魅力のあるなしにかかわらず、専門家としての意見を求めます。同様に、教師に子弟を預ける時、たとえその教師にえこひいきがあっても子供の教育に深い関心を示すこととその要求に答えてくれることを期待します。これは優秀な職業人に必要とされる特質の一つです。こういう人は職業上の要求と自分の感情を別個に考え、自分の感情を考えずに相手に最大の関心を示す行動をとります。私たちの影響下にある人々に同じような好意を分け隔てなく示すならばそれはとりもおさずキリストの愛を深めてゆくことです。

好意を示す結果、私たちに、そして相手にもたらされるものは、より大きな暖かい感情と積極的な感情です。無関心な人、敵意のある人、悪意に満ちた人に対して好意を示すと、その結果、そういった人が態度を変え、好意的になり始めることがあります。このような結果がもたらされれば、それは素晴らしいことですが、必ずしもこのような結果が得られるわけではなく、むしろ報いを求めずに好意を示すべきであることを忘れてはなりません。友情は相互的なものですが、好意はそうではありません。たとえ相手がうとんじて、私たちは好意を示す時に快いものを感じることがあります。キリストの愛は私たちの感情にも、私たちの愛を受ける人の感情にも関係ありません。それは意志に基く行動であって、感情に基く反応ではないのです。パウロはローマ人に対し、偏見をやめ、謙遜な人と交際せよと話して、キリストの愛の精神を表わしています。また、すべての人が尊敬を受けられるように力を尽せと言われました。

キリストの愛の原則を日常生活に取り入れようとする時、**注意**しなければならぬ落とし穴があります。一つは、**抽象的な好意**を示しがちになることです。これでは期待しているような効果はあがりませんし、実際はそうでないのに原則に従った生活をしているという錯覚に陥ります。たとえ人に対して好意を持っていても、家族、学校、教会で接する個人に好

意を表わさなければ、大して意味がありません。口先では教育の重要性を述べても、学校を良くするために何の手だても講じない人がいます。また、国を愛していると言いながら、国の問題や選挙の候補者に関心を示さなかったり、投票しないで国民の義務を果たさない人もいます。

私たちの中にも教会を愛していると言いながら、具体的には兄弟姉妹たちと、時間や力や才能を分か合わない人がいます。抽象的には好意を持っていても具体的にそれを表わさないことは悪魔の誘惑であり、自分を欺くことです。

キリストの愛を表わす上でもう一つ大きな障害となっているのは、好意を示す時に選り好みをしやすいことです。これには、宗教、人種、市民権、社会階級、教育程度等の要因があります。そのような場合の好意は、人間が生来持っている価値を認めていないことを示しています。もし好意を示す対象が、何か共通のものを持っている人だけに限られているとしたら、それはキリストの愛ではありません。私たちは自分と共通点の多い人々には自然と心ひかれるものです。これはだれしにも言えることで、決して悪いことではありません。ただ、これをキリストの愛と間違えてはなりません。

キリストの愛は大きなチャレンジであり、一生を通じての課題です。私達はそれが必要だからという理由で好意を示すことを目標としています。この目標はきっと日の栄に住むための前提条件となることでしょう。好意が何であるかを知り、それを示すのはまず家庭や教会から始めますが、最終的には、見知らぬ人、気にくわれない人、曲った心の持ち主と会った時の私たちの行動が問題です。神が全人類の父であり、全人類は兄弟であることを確信していることが、この問題を解決する上で大きな助けになるに違いありません。

態度と才能

ジョージ アルバート スミス Jr.*

我々は、20世紀前にイエスが指導者を選びたもうた方法と、有能な役員を選ぶという現代の経営者のやり方に類似点を見出すことができるだろうか。

これは非常に興味をそそる問題であるが、短時間で容易に話し合いのつく問題ではない。確かに、職業上有能な指導者を集めるという目的を、イエスが成し遂げようとなさった目的とまったく同一であるとみなすことはできない。しかしながら、いくつかの類似点をあげることができる。

いずれの場合においても、指導者はまず何を成し遂げたいと思っているのか、はっきりした自覚を持たなければならない。また自分自身、真の指導性を身につけていると同時に、他の人々の中にもそれを見出せる人でなければならない。指導者は完全を期待してはいけない。だからといってごく平凡な事柄に満足し、あるいは忠実を怠るようになってはならない。指導者は、自ら進んで学び、働き、時には非常な強敵にさえ向っていく力を期待すべきである。

これは、職業指導者（あるいは主）が個人的に導きを与える間、選ばれた人々は励まされうながされて、おしまわず企業の大目的に力をそそぐ一方、その理由がなんであれ最終的に指導者としての責任が彼らの肩にかかってきたとき、その主要な仕事は彼ら自身でやらなければならないという意味でもある。

彼らはこうして積極的に企業の目的の中で、自分自身の信仰を立証するのである。こうなると、普通選択を誤ったり、仕事の面で誤りが生じても、それは致命的なものとはならない。このようなことが起こったなら、何らかの手段を講じて変える必要がある。新たな展望は経験と責任から生まれ、新たな力は新たに生じた要求から得られるのである。

堅固な心

ビジネスの世界では、指導者は自分のまわりに、必要とされるさまざまな特殊技術を備えた人々を集めようとする。彼らは主要な指導者のもとで、あるいは同僚と共に喜んで働くことのできる人でなければならない。こうなると技術だけでなく態度も問題になってくる。イエスがご自身の教会を組織するために、熟練した説教者、訓練を受けた教師、すぐれた

組織者、勉学に没頭した学生等を選ばれたかどうか議論する余地はない。それでは、イエスはそれぞれの仕事を自ら進んで学ぼうとするその態度に最も深い関心を寄せておられたのだろうか。おそらくそうであったろう。しかし学業を修めることが、選ばれたごくわずかな人々に限られていたその時代であって、イエスは人々の持っている才能をもご存知であった。主はご自身の教会を設立するために、確かに天賦の才、勇気、体力を備えた人々をも召されたに違いないのである。主は、各時代にあって、実際にその時代の価値を知っている人々を召されるのであり、これまでもそのように召されてきたのである。

イエスは実業家以上に、ご自分の組織の長い将来にわたる目標をご存知であったし、また最後の時に、その組織を続けようとする人々がいかに力を尽し、最後の努力をして2千年というギャップをうめあわせるかをご存知であった。時の絶頂にご自身の目標を達成するため、すなわち福音を広め、ご自身の教会を設立するために——イエスはこの仕事をなすに必要な堅固な心を持った人々を選ばれたのであろうか。ともに見てみよう。

漁師、農夫、羊飼い

ある意味で、イエスは進行中の宗教運動、すなわちユダヤ教の中で御業をなされたとも言えるだろうし、また別の意味ではユダヤ教に取って代わるとまではいかにしても、それを復興させ、改善しようとなさっていたと言えるだろう。なぜなら目標、価値、方法、目的などが入り乱れていたからである。

イエスの時代に、またそれ以前の幾世代かの間に、ユダヤ人は属国民になっていたのである。彼らの間には聖職者階級ができ、彼らだけの予言者、さらには王までも存在した。しかし、これらはすべて非ユダヤ教徒の王の支配下に置かれたのである。読者の方々は、彼らが束縛から自由になるために長い間救い主あるいは贖い主（いろいろな名で呼ばれる）を待ち望んでいたことを思い出すであろう。

このような背景から、人々はイエスご自身も聖職者階級あるいは支配者階級の家族の出ではなかったかと考えがちなのである。たとえそうでないにしても、弟子にそういった階級の人々を選ばれたのではないだろうか和人々は想像する。しかしそうではなかった。ヨセフと同じようにイエスは大工であったし、弟子として漁師、農夫、羊飼い、下級の役人、誠実な職人等を選ばれたのである。彼らは恐らく共通して聖典に通じ、いわゆる上層階級の人々の伝統、望み、問題などを知っていたのであろう。彼らは人間のさまざまな気質を代表した人々のようである。

確かに彼らは、イエス・キリストの中に人間として異質なものを感じた。それゆえ、自らすすんで日常の仕事を手放し、あるいは最少限にとどめようとしたのである。たとえどこであって彼らはイエスにつき従い、じかに接することができ

* 教会の第8代大管長ジョージ アルバート スミスの子息ジョージ アルバート スミス Jr は、ハーバード大学「商業経営」部門の教授をつとめた。1969年10月12日死去。

た。彼らはイエスに多くの質問をし、自分たちのしていることの目的や意味を十分に理解できないような時でも、イエスの言われたことに忠実に従ったのである。

イエスがわずかの間この世にあって、人々に導きを与えたもうたことを記した短い記録により、そこには弟子たち一人一人の詳しい記録は期待できないが、弟子たちは主のなし遂げようとされていることと、主の根本的な目的との間に時々食い違いを感じていたことがわかる。イエスが実際に語られた事柄は、弟子たちが自分で見聞きしたいと望むことを彼らにとってわかりやすくするために、おもむきの変る場合もしばしばであった。読者の方々は、イエスに対して、またみ教えに対して熱烈な信仰を抱いていた弟子たちを思い起こすと同時に、彼らの中には時折、疑いを抱いた者もいたということを出されるであろう。

裏切り、否定、疑い

記録やイエスの死を間近にした出来事から、イエスに公然といさめられたことのある俗世や教会の「権威者」たちが、イエスを問題を起こす人とみなしたり、ある時は危険な革命家とみなしていたことが非常に明らかである。

最初の弟子を召されるキリスト



イエスと時代をともしたあらゆる階級の人々は友人も敵もそれぞれ異なった理由から、イエスの教えに、奇跡に、大胆な言葉に驚嘆し、さらに召しを受け祝福を受けた人々、イエスにいさめられた人々を見て驚嘆した。

しかし、イエスは、すべての人々の中にある最善のものを呼びさまし、罪悪の結果からすべての人々を救いたいと望んでおられたにもかかわらず、イエスの力がしだいに大きくなっていくのを恐れた人々によって、はりつけにされたのである。これは皮肉なように思えるが、しかし理解できないことではない。人間の性質というものは、これまででもそうであったように富や社会的、政治的権力、身分などに高い価値を認めながらのである。こうして、人々の間に自分の信じる正義と同情の心を広めるといふ自分たちの野心がくじかれそうだと感じると、どのような人にもどんなことに対してでも恐れを抱くのである。

イエスは、救いにあずかろうとしない人々のために悲しまれ、はりつけにした人々のために、彼らは何をしているのかわからずにいると言って神に許しを請われた。

イエスの最後が近い混乱した状態にあって弟子のユダは、前に忠実であったにもかかわらずイエスを裏切り、ペテロはイエスを否定したのであった。イエスがはりつけにされ復活した後、トマスは自分の目を見たものを疑った。ましてや他の弟子たちは、イエスが復活後始めて彼らの前に現われた時イエスと認めることはできなかったことであろう。

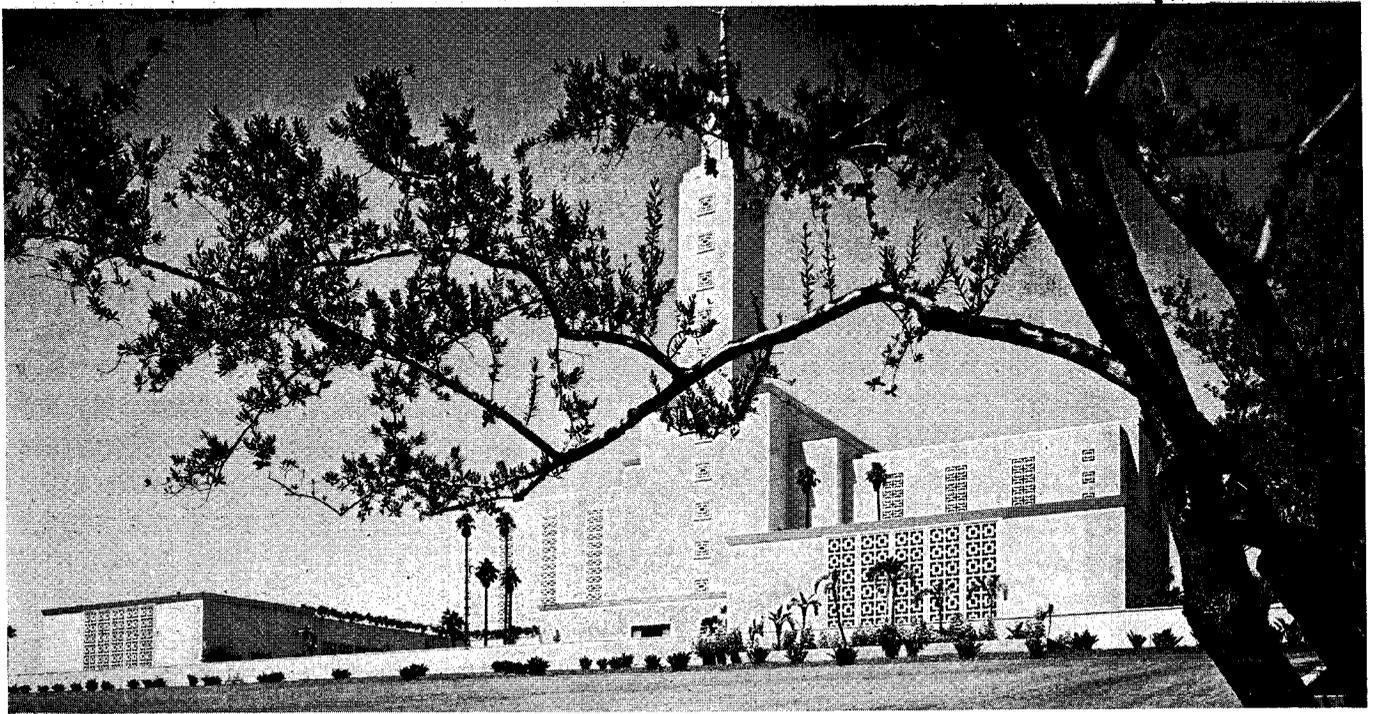
召しに忠実であること

イエスのはりつけののちは弟子たちや他の人々にとって、混乱と絶望の日々であったことが記録に明らかにされている。聖霊の賜によって弟子たちの悟りが開かれたペンテコステののちはじめて、彼らはイエスのこの世での使命、生涯、死、復活、たびたびの訪問、最後の別れ、再降臨の約束などが、弟子たちやすべての人々にとってどんなに重要な意味を持っているかを悟ったのであった。(ヨハネ20:22参照)

イエスがこの世を去ってのちに、ユダのかわりにマッテヤが選ばれ、み言葉を大胆に宣べ伝える人としてパウロが加わった。

聖書やその他の記録からみて、それ以後弟子たちはみな全時間を捧げて、イエスに受けた教えを人々に伝える仕事に従事したことがわかる。彼らは身近な人々に主の教えたもう原則を信じるように、そして彼らの生活を自分たちと一致させるように、またそうすることによって得られる永遠の報いを受けようとする。とすすめた。

イエスのご自分の弟子を思慮深く選ばれたであろうか。弟子たちはイエスに心から仕え、弟子としてのつとめをよく果たしたであろうか。彼らは死ぬまで主の御業に励み、力を尽して忠実に「喜びのおとずれ」を人々に宣べ伝えたのであった。これらの問いにはっきりと「然り」の答えが与えられるのである。



主の宮居

ジョン A. ウイツォー長老

神 殿は、教会の神聖な儀式が広く執行される建物である。また「祈りの家、断食の家、信仰の家、学問の家、栄光の家、秩序の家、神の家」(教義と聖約88:119)であり、地上における主の家である。

いつの神権時代にあっても神殿は必要である。なぜならば、主は神殿において、自らまたはきよきみたまによって啓示したもうからであり、神殿を通して、世を最期の時に備えさせるからである。神殿では、現世と永遠の間に橋がかけられ、救いの計画の全貌が明らかにされる。神殿内の活動は、福音に生きることが中心となり、完全に教えられる。

霊的な力が神殿に生まれ、祝福をもたらすため世に送られて行く主の宮居よりの光は、神殿の特権に与えることによって資格を得たすべての教会員の家庭を照らす。神殿から人の家庭に至る道は神々しく輝きわたっている。神殿の精神が浸透している家庭は、家族を啓発し、元気づけ、安らぎを与える。我々の切望する平和はそのような家庭にある。確かに、神殿が地上にある時は、全世界が神殿より出ずる光に与かっている。一方神殿のない時は、かつてのエノク

の時代の人々を指して「シオン逃げたり」と言われたように人々の心は悲しみに追いやられる。

神殿は教会員の利益と啓発のために存在する。そこでは神権の鍵が顕わされ、人生の諸問題を解決するための力が「いと高きところ」より人々に与えられる。人々はその所で天の軍勢と親しく交わり疑いを知識と確信に置き換える。神殿の儀式には深い意味があり、人生につける真理を完全に包括的に示し、生の神秘を説き、福音をさらにわかりやすくする。心をひろげて神殿の恵みに与かる者は人生の問題を処するための大きな力と新しい理解を携えて神殿を出る。

人は神殿の儀式を通じ、人格において霊的な喜びにおいてさらに高い水準に達する。自分自身のエンダウメントはただ一度のみであるが、この世を去った人々に代って数限りないほどのエンダウメントを受けることができる。この身代りの儀式を受けることは、この

※ジョン A. ウイツォー長老。1872年ノルウェーに生まれ、1952年11月29日没す。1921年十二使徒評議員会に召されるまで、ユタ州の主要二大学の総長を勤めた。才能に恵まれた多作家で、長年インブルーヴメント・エラ誌の編集長にあった。

世の報いを何ら求めぬ非利己的な行為をなし、救いの喜びの一面を味わうことであり、全人類のために亡くなられた主イエス・キリストに一步一步、歩みを進めていることである。このように死者のために働く人々は、神殿を出ると新たな力を得て、世の人々と公平に接し、「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」という黄金律を実行しているのである。

そのような身代りに行なう奉仕にもすぐに与えられる報いがある。他人のために神殿のエンダウメントを受けるたびに、人の歩むべき永遠の旅を見なおし、自分の永遠の進歩の状態と神の律法に従うという自身の誓約を思い起こし、実践により真理を生きたものにすべき必要性を再認識し、義人の輝ける行く末を再確認する。記憶が新たにされ、意識が高揚され、望みは天にまで高められる。神殿を繰返し訪れることにより、日々の祝福がもたらされる。神殿の儀式は、そのどの点をとっても、行なう人のためになる。

神殿に入り、その経験から多くのものを得たいと望む者は、自らの心を前もって清めようとしなければならない。このような者しか神殿から湧れ出る恵みを自らのものとすることはできない。永遠の事柄に資格のない人、あるいはふさわしい心を持たない人は、神殿に入っても儀式の根本的な美や価値に気づかないであろう。心の清い者は、神が神殿の中に在したもうことを知るであろう。神殿内で行なわれる働きも、教会のすべての分野と同じく、この世の不完全

な人間によって行なわれるが、神殿のエンダウメントの物語、レッスン、話される事柄は神より与えられたものであり、完全であることを忘れてはならない。神殿に入る人はすべて、物質的な不完全さの中に霊的な完全さを見るに違いない。

神殿の特権を正しく用いる者は、平安・安全・理解・喜びを得得であろう。若い人々も中年の人々も年老いた人々もすべて、神殿から得られる助けが必要である。また、年若き時より神殿の祝福を求めることは良いことである。神殿結婚をしない者は、その人生で多くのものを失う。神殿は、「すべての聖徒の感謝を捧ぐる一つの場所となり……彼らが福音のために働く仕事を理解することに於て理論に於て、原理に於て、教義に於て、……この世の神の王国に関するすべてのことに於て完き者となるを得んためなり、その中にわれ入り来る故にわれその中に在るべし。されば、この家に入り来るすべての心清き者は神を見ん。」(教義と聖約97:13~14, 16) すべての末日聖徒にそのような祝福が必要であり、全世界の人々に直接必要な事柄である。

考えていただきたい。もし、神殿と真理が無かったとしたら、私達はどれほどみじめだろうか。神殿を与えたまひ、神殿の使い方を理解せしめたもうた主を崇め奉る。私達が永遠に神殿を建て、神殿を使う民であらんことを。

さあ、最良に活用しなさい

リチャード L. エバンズ

ある国に、才能や賜が豊かでありながら、それを充分生かさない少女の物語が伝わっている。ある日、その娘の母親は勘忍袋の緒が切れたように、娘をゆすぶって叫んだ。「わたしはおまえを生んだだけ。おまえの人生はおまえがどうかしなくては、いけないのよ」と。天の御父は同じようなことを言っておられるのではあるまいか。「わたしはあなたに命を与えた。人生を最良に活用しなさい。わたしはあなたに時間を与えた。機会や才能や知恵を、そして地球とそこに満ちるすべてのものを……。さあ、それを用いなさい。使って何かをしなさい」と。それについて一編の詩が心に浮かぶ。今日ではあまり聞かれないが、意味深い言葉である。「われらは戯れ、夢み、漫然と日を送るべく地に生きるにあらず」。最大の浪費は、時間の浪費、才能の浪費、機会や創造の努力のむだ使いである。自分の進歩や勉強、仕事に無関心なこと、注意を向けないこと、しりごみすること、用い方を教えてくれと言う態度がそれである。我々には準備すべき時がある。大切な責任あるつとめを果たすべき時がある。無関心に漫然と日々を送ることをやめ、神の与えたもうた貴重な才能と機会をしりぞけることをせず、導きをあおぎつつ、己れを見出し、前進しようではないか。この広い世界、祝福された地上に、またそれぞれの人生に、常に変らぬ一つのなすべきことがある。それはもっと有益な方法で能力の最善を尽し、進歩しようと懸命になることである。折に触れて、天の御父が自分をゆすぶり、「わたしはあなたに命を与えた。さあ、人生を最良に活用しなさい」と言っておられることを感じつつ……。御父は、我々が思う以上にそのことを心にかけておられるのである。

改宗

サミュエル L. ホームズ*



あなたこそ、生ける神の子キリストです

——マタイ 16:16——

イエスはペテロに、ご自身をだれであるかと問われペテロの心からの答えを彼自身から出た言葉ではなく神よりの啓示であると言われた。この選ばれた弟子ペテロは、たえず心に弱さと動揺があった。しかし、この時彼は完全な知識を持って答えたのだった。

ペテロの時代以後、イエス・キリストが神であることを信じる人々は、信仰に確信が持てるよう努力してきたが、確固とした信仰を持つにはいたらなかった。個人に対してひらめきのような啓示が与えられて、人生のあらゆる出来事を見通し、努力なしに良い人間関係を作りあげ、あらゆる問題に答えを得、すべての疑問を解決することが必ずしもできるわけ

ではないことを我々は信仰生活を通じて知っている。

「あなたが改宗した時には」

ペテロの場合もそうではなかった。性急で衝動的な激しい性質の持主といわれていたペテロは、我々ととても同じであるが、改宗とは、一旦改宗すればゆるがないものということではなく、絶えず変わるものだということを学ばねばならなかった。ピリポ・カイザリヤ地方で、また後に変貌の山（マタイ 16:13~17, ルカ 9:28~32, 参照）での経験は、大きな影響を与えて、この一徹な漁師を変えた。しかし、自分の生計は自分の手で立てるという直接的、物質的なそれまでの生活方法は、三年近くの間、救い主の使命についてのペテロの考え方に影響を及ぼしていたのである。

ペテロがはじめて信仰を告白したのち、弟子となるための準備期間中に、イエスはご自身の死が定められていることを何度となく示唆されたにもかかわらず、完全にペテロを目覚めさせることはできなかった。イエスがエルサレムへ行って長老、祭司長、律法学者たちから多くの迫害を受け、そしてついには殺され三日目によみがえることをはっきり話された時、ペテロはそのようなことは起こるはずがないと言って主をいさめた。しかし主は厳しく非難して言われたのである。「……サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」（マタイ 16:23）

打ち返したり、暴力に訴えたり、神にゆだねるべき裁きを人に託すなど人間として自然と思われる衝動が、後にまた見られるように、この時ペテロの心中に首をもたげていたのである。

ご自身の死が近づいた時、主は弟子たちに別れが間近にせまっていることを話された。ペテロはイエスの目的のためには死をもいとわない献身を誓った。しかしながらイエスは、この使徒の頭ペテロの前途は長く試練の多いことを見越してただ次のような警告を与えられたにすぎなかった。

「……シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが改宗したときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」（欽定訳ルカ 22:31~32）

* サミュエル L. ホームズ、ユタ州立大学を卒業し、現在カリフォルニア州サンフランシスコで弁護士を営んでいる。英国とニューイングランドで伝道に従事した。（1938~40）
現在の日曜学校中央管理会の責任を受ける前に、ステーキ部高等評議員、日曜学校会長、日曜学校教師をつとめた。夫人と5人の子供と共にカリフォルニアに住んでいる。

「あなたが改宗したときには」という言葉は、後にペテロがその通りになったことからイエスが鋭い洞察力を持っておられたことがうかがえる。「改宗」という言葉は現代語訳の新約聖書では、「たちなおる」と訳されており、その意味が少しはっきりしてくる。この訳語は、改宗に至るには絶えず霊的な訓練が必要であること、またたとえ奇跡から信仰を得たとしても、ぐらつく恐れがあるということをより明らかに示している。

「わが羊を養え」

腕力には腕力でというペテロの衝動的な性癖が、イエスが捕えられた夜に再び見られる。その夜ペテロはマルコスに剣をもって切りかかり、片方の耳を切り落した。このあとに、イエスがその傷をいやされ、彼らのなすがままに静かに身を任せたそのことはペテロにとって理解しがたいことであらう。(ヨハネ18:10~11, ルカ22:49~54参照)

その同じ夜、イエスが予言された通り、ペテロの信仰も数時間のうちに三度主を知らないかと否定するのをとどめさせることはできなかった。しかしこの後すぐにペテロは心を痛め悔改めた。信仰の試しに負けてしまったことに気づいたペテロは、自分の身の安全だけを気づかう人々がそうするように心から苦しんだ。そして外へ出てはげしく泣いた。(ルカ22:56~62参照)

試しはそれで終わったわけではなかった。ルカは、復活された主がペテロにお現われになったことをはっきり述べ、また福音書の著者はみな、主が群衆をたびたび訪れその場にペテロがいあわせたことを記録している。また彼らは、イエスがわかりやすい言葉で、福音があらゆる国民にのべ伝えられなければならないと戒められたこと、またイエスが昇天する前に人々の「心を開かれた」ということを記している。

それでもなおペテロには、はっきり理解できなかったのである。彼が改宗するためにはさらに目覚めさせるものが必要であった。主の昇天後伝道に出るかわりに、ペテロはもとの仕事、漁師にもどった。漁がおもわしくなかった失望の夜が明けると、岸のほうから船の右側に網をおろしてみなさいという声が聞えた。それは主の御声であった。イエスと弟子たちがたき火をかこんで食事をしている時、三度イエスに対する愛を言い表したペテロは小羊を養うようにと言われた。この召しを与えられてのちはじめて、彼は聖霊の導きによって、指導者としての責任を心から引き受けたのである。

従順——改宗への基

彼は急速に確信を持つにいたり、他の弟子たちを選び、伝道の仕事にのり出した。彼はペンテコステの日に何千人という人々に悔い改めと、バプテスマを説き、異言を語る賜物が

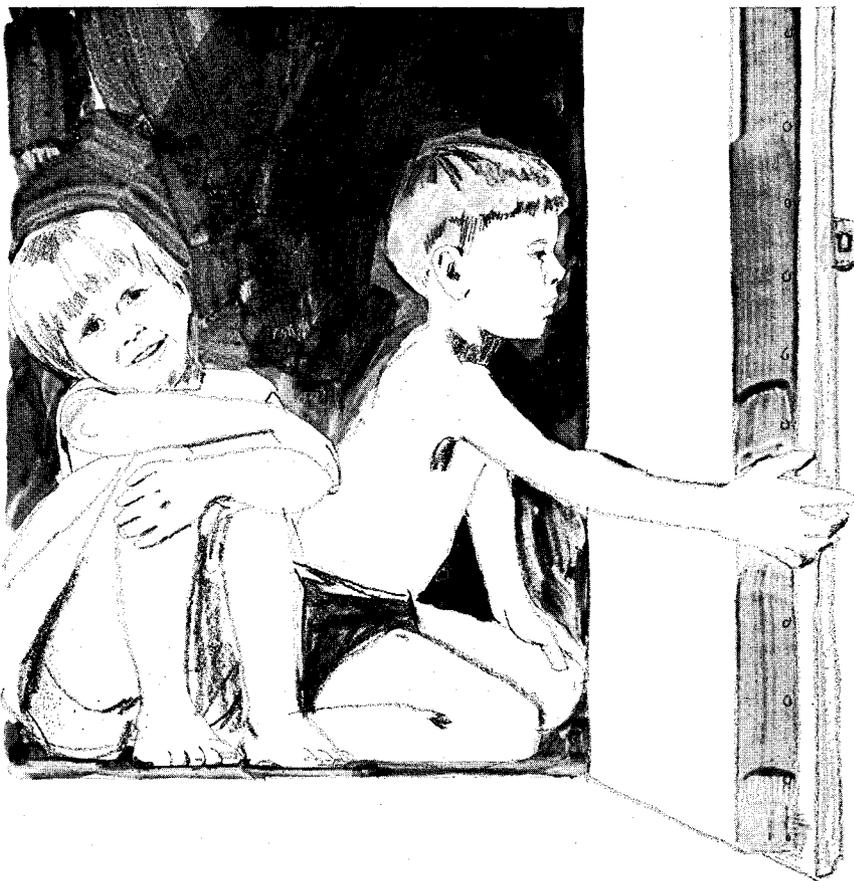
与えられ異国の人々も奇跡的に彼の説教を理解することができたのである。またペテロは病人をいやし、彼はそれを人々がはりつけにしたナザレ人イエス・キリストの名によって行なったことを大祭司やその一族に証した。そしてこの天が下には、イエス・キリストの名を他にして救われる方法はないと宣言したのである。説教をしてはならないと命じられ、脅かされ実際に打たれたりしながらも、ペテロは恐れることなく、自分が主の御名によって苦しみを受けるにふさわしい者であることを喜んだのであった。(使徒行伝2~5参照)

ペテロは改心し、いろいろな行ないを指導する力が彼の内に宿ったが、これで試しが終わったわけではなかった。さらに上手な説教、病人のいやし、死人を生き返らせる業などが、心を動揺させるような清くない食べ物に関する示現や、コルネリオや他の異邦人の上に注がれた聖霊により明らかにされた示現の解釈などのために、さえぎられてしまった。その結果、異邦人たちはバプテスマを受けたが、それは聖徒たちの間に危機を招いた。そこでペテロは、最後まで耐え忍び、昇栄へ至るそのような改宗について学び、その道を歩んだ。彼は、同胞のユダヤ人の中でひどく恨まれている教義を正しいと証するために信仰を強め、勇気を持つ必要があった。(ガラテヤ2, 3参照)ユダヤ教徒との論争は、若い教会をほとんど分裂寸前にまで追いやったが、ユダヤ教だけを説くのではなく、万人のための福音を伝える必要があるというペテロの広い考え方によって論争はおさまった。(使徒行伝18参照)

長く辛い生涯を通しての献身的な奉仕こそが、この偉大な人ペテロを改宗させた理由であり、またその基となったのである。彼の晩年のことについてはあまり詳しく知られていないが、生涯の終りに近づいた時彼は聖徒たちに「思い起こしてもらいたい」といって自分が改宗するにあたり経験した偉大な出来事の一つを証した。それは、父なる神から「栄光を受けた」イエス・キリストを見たことと、次のような天からのみ声を聞いたことであった。「これはわたしの愛する子わたしの心にかなう者である」。(Ⅱペテロ1:12~18参照)

偉大な奇跡は、ごくわずかのの人々にしか経験できない。しかしペテロの生涯は、我々に奇跡だけで人は改宗できないことを教えてくれる。むしろ、一度弱くなった信仰を再び強くしようとする力、進んで学び、悔い改めること、靈感を受けられるように常に心を開いておくこと、終りまで続く献身的な奉仕、こういうものこそ改宗するための手段となるのである。ペテロは福音の真の意味が自分に明らかになるまで、何年間もそれらと戦った。そして彼にとってそのくびきは負いやすく、重荷はその道を歩むことによって軽くなったのである。それは奇跡によってではなく、改宗するまでの過程を通してそうだったのであった。(次の大人のページは3ページあとからはじまります)

かくれんぼ



ルシル C. リーディング

お父さんとお母さんは、その2日ともソルトレークの総大会のラジオ放送に聞きいっていました。それでマークは一人ぼっちでした。けれども学校がお休みの土曜日と日曜日に、お姉さんが家にいてとてもうれしそうです。

それは、すがすがしい10月のある月曜日の朝のことでした。お姉さんのリンダは学校に行っていました。朝食の洗いものを終えて洋服を着がえると、お母さんとマークは急いで出かけました。途中のいなか道で、ミル夫人が洗い終えた洗たくものを干していました。まだ5歳の小さなマーシャが、うれしそうにマークにあいさつをしました。

お母さんたちが週末にラジオで聞いた大会説教について立話をしているので、子供たちは物干しづなのそばで遊んでいました。近所のサンドラが家から出て来たところを見て、マーシャが言いました。「ねえ、かくれんぼしましょ。サンドラが私たちのこと見つけられるか見てみましょうよ」

小さな2人は手をつないで庭を走って行くと、ガレージに入って行きました。ガレージのすみに、ミルク用の大きなからっぽの冷ぞう庫が置いてありました。ちょうど2、3日前に、マーシャのお父さんがその中にしまっておいたセメント袋を取り出した後なので、冷ぞう庫はまだ何も入っていませんでした。2人はすばらしいかくれ場所だと思いました。

2人が中に入ったその時、重い2重の扉（とびら）がどし

んとしまっていました。2人は、とじこめられた冷ぞう庫の扉やかべをドンドンたたきながら、声もかれんばかりに助けを求めましたが、とうとうおそろしさのあまり泣き出してしまいました。扉をドンドンたたいたり、空気がうすくなった中でけん命に息をしていたために、2人の洋服は汗でびっしょりぬれてしまいました。

急にマーシャが泣くのをやめて言いました。「マーク泣かないで。お祈りしましょ」マークが泣くのをこらえていると、マーシャが一生けん命にお祈りを始めました。ちょうどその頃、ひっしになって子供たちの名前を呼びながら近くをさがしていたお母さんたちが、ガレージの中を「もう一度だけ」さがしてみることにしました。

2人が発見されて助かったのは、暗いすみの方からかすかに聞えてきたマーシャのお祈りのおかげでした。

数年後、マークとお友だちはガレージのすぐそばに立って大きな冷ぞう庫の中から大声でさけぶ声が聞えるかどうかためしてみました。何度もくり返した結果、みんなの意見は次のように一致しました。お母さんたちのどんな物音も聞きもらすまいとするひっしな気持ちがなければ、マーシャとマークの声は決して聞こえなかったでしょう、と。

ルシル C. リーディングによるほんとうにあった話。

山賊の前哨に着くと捕えられたが、争うことも抵抗することもせずただこう叫んだ。「このために私は来ました。あなたたちのかしらのところへ連れて行って下さい。」という彼の声だけが聞えた。首領は武装して彼を待っていたが、近づいて来た彼がヨハネだとわかると恥かしさに耐えられなくなって逃げていった。しかし、ヨハネは自分の年も忘れて、けん命に彼の後を追いつながら言った。「息子よ、武器も持たない年老いた父から、なぜ逃げるのかお願いだから……恐れずに……待ってくれ。信じて欲しい。キリストが私をつかわされたのだ。」

この言葉を聞いた彼は、うなだれてそこに立ちどまったかと思うと、武器を投げ捨てわなわなと震えながら激しく泣き出した。年老いたヨハネが近づくと彼は抱きついて、苦しそうに許しを請うた。使徒はこの青年のため心血を注いだ。再び彼を教会に導き、彼のために祈りを捧げ、熱心に断食をした。そして、彼の心に教会がよみがえるまでそこを去らなかった。(聖クレメント・オブ・アレクサンドリア、*Quis Divinitus Salv.* 42章)

これは、古代に使徒が教会の若人に示した関心を物語る感動的な例である。今日の教会においても、若人に対する関心は一人一人に強く向けられている。監督の召しは、若人への関心という点で特別な意味を持っている。監督はアロン神権の長であり、この職にあってワード部の若い男女に対して特別な責任と関心を持つ人である。

教会の若人は、監督の身近にあって忠告に耳をかたむけ、その指導を尊重しなければならない。監督の召しは、**教会において非常に重要な神聖な召しであり、監督に召された人は特別な人である。その人は、主がその任命した**

僕を通して召しを与えた人である。そして、日々の生活において配管工、農夫、教師あるいは医者などの職業を持つ一方、神に召された人なのである。

パウロは監督の特徴を次のように述べている。

「さて、監督は、非難のない人で、……自らを制し、慎み深く、礼儀正しく、旅人をもてなし、よく教えることができ、酒を好まず、乱暴でなく、寛容であって、人と争わず、金に淡泊で自分の家をよく治め、謹厳であって、子供たちを従順な者に育てている人でなければならない。自分の家を治めることも心得ていない人が、どうして神の教会を預かることができようか。彼はまた、信者になって間もないものであってはならない。そうであると、高慢になって、悪魔と同じ審判を受けるかも知れない。さらにまた、教会外の人々にもよく思われている人でなければならない。そうでないと、そしりを受け、悪魔のわなにかかるであろう」

(I テモテ 3: 2~7)

今日においても、監督は非難のない人であり、自らを制し、慎み深く、礼儀正しく、旅人をもてなし、よく教えることができ、寛容な人でなければならない。そして、個人的な問題や疑問を持ちかけることのできる人であり、靈感を受け、知恵のある人である。監督はその身も霊も捧げる。一週間のうち非常に多くの時間を自分の召しに捧げている。監督はワード部の霊的な父であり、困っている人々に対する福祉と、ワード部の財政上の責任を持ち、ワード部の会員すべての判事である。その召しは最も重要で、最も神聖なものである。

監督が効果的にその職を果たすには、ワード部の若人による忠誠と信頼を必要とする。あなたが監督を支持す

ることは、神聖な義務であるだけでなく特権でもある。モルモン経には、リーハイが息子たちに、エルサレムへ行ってレーバンから真鍮版を手に入れてくるように命じる場面が記されている。息子ニーファイに対して、リーハイは次のように言っている。

『それで、主は汝と汝の兄弟たちはレーバンの家へ行ってその歴史をくれるようにたのみ、それを荒野の中のここまで持ってくるように私に命じたもうた。ところがごらん、汝の兄弟たちは私のたのみがむつかしいことだと言って不平を鳴らす、これは私が汝の兄弟たちにしてくれと言ったのではなくて、まことに主の命令である。だからわが子よ、汝はエルサレムへ行け。そうすれば汝は不平を言わなかったから主に恵まれて助けを受けるであろう。』そこで私ニーファイは、私の父に『私は主が命じたもうことを行って行く。私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それで行く。主は何の命令も人に下したまわれないことを承知しているからである。』と言った。父はこれを聞くと、私が主に祝福されていたことを知って非常によろこんだ。』

(I ニーファイ 3: 4~8)

自分の監督に対して不平を言わず従順な若人は、ニーファイのように、主によって任命されたしもべの言葉に従う者に約束された祝福を受けるのである。ワード部の監督はあなたの幸福を心にかけて、あなたに大きな関心を寄せているのである。監督の言葉に耳をかたむけよう、そうすれば彼が真に神の召しを受けた人であると思われるであろう。

聖典を生かす

エレイン・キャノン

聖典に通じている人々がいる。彼らは折あらば喜んで聖句を暗誦する。手軽に、適確に聖典を活用し、長い引用文を用いる。彼らは聖句をよく知っているだけでなく、賢明に神の御言葉を応用する人と言えよう。

多くの人は、天父の教えられたどの原則がそれぞれの状況と関連しているかを知るのに、助けを必要とする。自分の必要としている事柄に答えや指示を与えてくれる勧告は、そう簡単には見つからないからである。人生の岐路に立たされた時、その場合にあてはまる主の御言葉を思い出すことさえできれば、私たちは喜んで主の戒めに従い、その御言葉を大切にすであろう。私たちは、神の御言葉のかわりに、あまりにも「人の力に頼り」すぎる。

私たちの知恵をはるかにまさり、愛といつくしみの深い神の御手にあることを信じて、私たちは人生の大切な問題に関する神の忠告を考えてみよう。

導き

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう」。(ヤコブ 1:5)

もしあなたが、何かにおいて知恵に不足し、人生において決断を迫られ、心に疑問が生じ、何らかの導きが欲しい時、聖典にも記されているように、神以外の何に助けが求められるだろうか。主が答えを

持ちたもうのであり、主の御心はあなたに祝福を得させるものである。

成功

「怠惰なるを止めよ。不潔なるを止めよ。互いに欠点を探すを止めよ。度を過ぎて眠るを止めよ。早く臥床に入りて疲れを休めよ。朝は早く起きて汝の肉体と精神とを活気づけよ。」

(教義と聖約 88:124)

これは特に十代の少年少女のために書かれたように思えるかもしれない。しかし、もしこの勧告に従い、この約束を心にとめるなら、成功への道が保証されているのである。「……お前たちが神の命令を守るならば神は必ずお前たちを祝福して栄えさせたもう。」(モーサヤ 2:22)

忍耐

「されど忠実にしてよく耐え忍ぶ者は、生くるも死ぬるも幸福なり。その者は、永遠の生命を受くべければなり。」(教義と聖約 50:5)

あなたが永遠の生命という究極の喜びに心を向けるなら、たとえ軍隊にあっても恐れや自由の拘束に耐えることができ、また激しい誘惑、何かを待つということに耐え得るのである。こうして耐えることにより、愛、親切、許し、理解において完全な御方である天父のみもとにたちかえることができるのである。



証

十二使徒評議員

ヒュー B. ブラウン

法 廷において証人が証拠事実を述べる時、厳粛に証言するか、あるいは宣誓した上で証拠事実を述べます。後者の場合、証人が真実の証言をしないと、偽証罪を問われます。

福音の真実なることを証する時も、おごそかに宣言または証言をします。けれども、この場合の知識の根拠は法廷における証人の場合と異なっています。恐らく、五感とはほとんど関係がないと思います。神が体をもちたもう実在者であり、ナザレのイエスが神の御子であるといった証、すなわち福音の真理の証は啓示によりもたらされるものであり、それは重大な神聖な事柄です。

法廷において伝聞証拠や間接証拠は、それを申し立てる証人が誠実であるか否かにかかわりなく、証拠として認められません。証人は真実のみを証言として限定しなければなりません。すべての教会員は教会幹部の教えを敬い、支持し、心に留めるべきです。けれども、よく吟味した上で、その教えが真実であり価値があるとわかるまで、たとえだれの言葉であっても、受け入れ、証とする人はいません。その後、啓示のみたまによりその論理的な推論が確かなものであることを知るので、なぜならば、真の改宗は心の中から来るものだからです。教会員は福音の全原則を納得していなくとも、教会に幻滅を感じたり、教会から離れたりはしないのです。

神の祝福はすべて律法に従ってこそもたらされます。この規則または法則は福音に対する証を得る場合にもあてはまります。律法を知り、律法に従う人こそが証を得ることができるのです。この場合に一定の前提条件があります。それを概略的にあげてみましょう。

1. 証を求める者は、福音の真理や求めている事柄に関して、知りたいという望みを持たねばなりません。
2. その事柄についてできる限り研究し、学ばなければなりません。ヨハネ5章39節には次のように記されています。「聖典を調べなさい。あなたがたは、聖典の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖典は、わたしについてあかしをするものだからである」(欽定訳)さらに、教義と聖約には1章37節で「これらの誠命をしらべよ」と指示されています。
3. 学んだ原則や真理を実行し、それらに従った生活をしなければなりません。救い主はこのように言われています。「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。神のみこころを行なおうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう」(ヨハネ7:16~17)
4. 天父に対し常に祈り、真理は聖霊を通して啓示により明らかにされるという信仰を持ち続けなければなりません。モロナイは私たちにこう言っています。

「聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかがあなたたちに解る」(モロナイ10:3~5)

使徒ペテロがキリストから彼すなわち救い主はだれかという質問を受け、それに答えた時、ペテロは啓示のみたまを持っていました。そしてイエスはこう言われました。「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である」(マタイ16:17)

このことは、もし人が必要条件を学んで、それを満たすように生活すれば、個人への直接の啓示が与えられるということを証明しています。

扶助協会の会員について考えてみれば、姉妹たちは家庭や教会のにない手を養成しています。すべての家庭には各々家庭の精神というものがあり、その精神は、母親が私たちモルモンの携っている仕事が神につける業であるとの証を持っているかどうかで大いに左右されます。このことは、母親が証を得、聖霊の導きのもとに家事や子供の生活を指導することの大切さを説いています。その際、母親は主と主の子等の間にある関係を常に心に抱いていることが必要です。

言葉を換えて言うなら、母親は大きな信仰すなわち神への信仰、自分と伴侶への信頼、義がすべてに打ち勝つことへの信仰を持たなければなりません。信仰とは知識をはるかに越えたも

のであり、この信仰があってこそ、母親は日常生活や信仰生活での試練に耐え得るのです。また知的にも道徳的にも導きを受けることでしょう。ですから、証を持っている母親は、子供がまねて心配のない義しい生活、常に聖霊を求め聖霊により靈感と導きを受けるような生活をするのでしょう。

もちろん、母親が証を求める際に得る知識は家庭を管理する上で大いに役立ちます。しかし、その知識も日常生活にとり入れ、活用しなくては意味をなしません。教えを知っていても従わないことは、暗闇の中でろうそくをともし目を閉じるようなものです。

家は物心両面にわたって食物と火を与えることができるのでなければ家庭とは言えません。家族に食物と火を与えるには、家庭を築く人が両親としての、力強い証を含めた一定の条件を備えていなければなりません。

使徒ペテロはペテロ後書1章5～7節で徳について述べています。

それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい。

アルマは次のように証しています。

こればかりではない。あなたたちは私自身これらのことを知らない者であるとは思わないか。ごらん、私は自分がこれまでに話したことはみな本当であると自分で知っていることを証する。どのようにしてそれが確かであることを知っているかと問うならば、これは神の聖い「みたま」が私に示したもうたのである。私は自分がこれを知るために長い間断食をして祈った。そこで主なる神がその聖い「みたま」によってこれを私に示したもうたので、私は自分でこれが真理であることを知っている。この聖い「みたま」とはすなわち私の中にある啓示の「みたま」である。(アルマ 5:45～46)

非常に多くの家庭が破壊されつつある今日、今や無味乾燥な単なる家の建設をやめ、将来にわたって持続するよ

うな家庭の基礎を築いて、破壊された家庭を再建すべき時に来ています。

祖父母の時代では、良きにつけ悪しきにつけ、互いにいたわり合い、逆境にあっても二人で改善に向かって努力しました。そして私の祖父母の結婚生活は60年以上にも及びました。それは二人の間で最も暗い時間も一時間とは続かないことを二人共知っていたためでした。今日多くの人々は、避難扉の大きく開かれた結婚生活に入ります。それは、離婚裁判への扉です。

今日私たちが享受している自由には、ちょうど枝に根が必要のように、強固な自制と誠実とを必要とします。不安とスピードが錯綜し、複雑化した現代において、私たちは皆、緊張を強いられています。緊張には、がんばりとゆるぎない気力が必要です。福音への証は霊の土台を築く必要があります。これがないと人生は難破してしまいます。神が生きてましまし、イエスがキリストであり、福音が回復されたことの証を持つ両親が管理する家庭は、子供たちに人生を通じて最も強く消えさせることのない印象を与えます。

証とは長い弓から放たれた矢のようなものである。その勢いは、弓を引く手の力で決まる。(ペーコン)

使徒パウロはヘブルの聖徒たちに宛てた書簡の中で次のように述べています。

彼らと同じく、わたしたちにも福音が伝えられているのである。しかし、その聞いた御言は、彼らには無益であった。それが、聞いた者たちに、信仰によって結びつけられなかったからである。(ヘブル 4:2)

主はナザレから帰られた時、人々の不信仰のため偉大な業を多くはなされなかったと言われています。すべての望み、視野、動機は、神への信仰に応じて人に与えられます。

もし、啓示を受けて証を得た結果確信を持ったなら、その確信は命よりも大切になります。私たちは信仰から生まれる勇気が必要です。それは、夜の

後には必ず朝明けが来るという確信を持って、日暮れに雄々しく東を向くといった勇気です。

私たちは、かつてモルモン開拓者の持っていた自信に満ちた信仰を再び得るべきです。他人のランプに火をともすため私たちが道を求めるならばたいまつ¹の光が与えられます。

大事業もその成り立ちは信仰に満ちた第一歩から始まっています。私たちは未来に信仰を持って仕事をすべきです。なぜならば、この世での仕事の報いは非常に少ないからです。

暖かい気持と進歩、福音の証により支えられる信仰の力は常に必要です。

テニソンはこう言っています。

信仰は最も悪い状態の中でかすかに光る最上のものを見、太陽が隠れるのは夜のみだと感じ、冬のつばみに夏を見つけ、花のしほむ前に果実を味わい、歌わぬ卵にひばりのさえずりを聞き、しんきろうの中に泉を見出す。

義なる人の生きる信仰を死にたる教義、天の正確な地図と考えてはならない。愛情がなくその場限りで思いやりのない贈物は与えてもたちまちにして取り上げられてしまう。永遠の真理を厳然たる事実だと述べることは、証言であり行為である。

信仰とは、最終的な実現を待たずに道理にかなった確信を持つことであり、それらの確信が真実であったかのように生活においてその確信を実行することです。福音の証はそのような信仰を助長するものです。

ロバート・ルイス・スティープンソン³はこう言っています。「物事は究極的には高貴であると私は信じている。たとえ、地獄に投げ入れられようとも、私はそれを曲げるわけにはいかない。」

非常に多くの人々が自分の可能性を追求しています。月に100ドルも支払えば、求人に集まる人は大勢います。賞賛は不可能を可能にした人々に送られます。もし、なし得る事柄であれば、経験と技術がそれをなしとげます。なし得ない事柄であれば、信仰しかそれをなしとげるものはありませ

ん。信仰があってこそ、科学も宗教も進歩をとげるのです。そして神よりの助けは、人に信仰があるかないかで与えられるかどうかが決まります。救い主は絶えずこの言葉を口にしておられました。

しっかりしなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。

宗教的な信仰によって判断し、動かされた人の人生は、輝きに満ちたものです。けれども、信仰による判断を奪われた人生には、その最も高い意味と高貴な望みがありません。

善は万能となることに信仰を持つてはいないか。そしてその信仰を持ちながら、我々の義務を全うしようではないか……（アブラハム・リンカーン）。

1月1日であっても、12月31日であっても、信仰とは締めくくりの良い言葉だ。（ロバート・ルイス・スティーブソン）

詩は信仰である。それは、我々に見える見えぬにかかわらずピラミッドの斜面が頂上まで続いていると信じる信仰である。（ラルフ・ワルドー・エマーソン）

私たちは科学の分野において毎日、かつてパウロがローマに旅する途中で「どんな事がわたしの身にふりかかって来るか、わたしにはわからない」（使徒 20 : 22）と述べたような状況に直面しなければなりません。パウロのゆるぎない信仰は、彼の靈感あふれる証によりささえられたのでした。

扶助協会のあらゆる会員、イスラエルのあらゆる母たちは、神が生きてましまし、また自分の属している教会が生きて、成長し、絶えず将来を見ており、教会では新しい考え、ものごとをなす場合の新しい方法が教会員たちの生活に影響を及ぼしており、生活をなおざりにしたり、パリサイ人や懐疑主義的な考えを抱く者にはそのとどまる場がないという証を持つ必要があります。

ペテロがキリストの質問に答えた時に述べた証は靈感があふれるものです。「あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロは答えて、「あなたこ

そ、生ける神の子キリストです」（マタイ 16 : 51~19）この証は、先にキリストを否定したことから謙遜になり、ペテロ自身の負けじ魂からさらに輝かしいものとなった心からあふれる証です。天父のみこころを行ないたいというこの熱望が、開拓者たちを人々の侮辱や、非難に耐えさせ、末日聖徒あるいはモルモンという人々に自らを加わらせたのでした。

救い主はペテロの証を喜ばれました。なぜなら、それは、血肉によらず天父により啓示された証であり、ペテロが福音の計画を理解して得た愛と広い心の証拠だったからでした。

家庭で母親が福音の真理の証をくり返し述べることは、母親だけでなく家族やそれを聞いた人々の生活の防壁となります。扶助協会の役員や教師たちは神は体をもちたもう実在者であるという証を持ち、神と人との関係を理解しているからこそ、この全世界にわたる女性の組織は慈愛（愛）をスローガンに掲げているのです。（1コリント 13参照）

フランク・クレインはこう述べています。

月並みな慈善とは、物乞いのカンに小銭を投げ入れ、飢えた人にパンを与え、裸でいる人に衣を与えることである。本当の慈愛とは、別名を愛と呼ばれるが、物乞い、飢え、裸にさせた状態を改善してやることである。月並みな慈善はかのバウンティフル婦人のように金持であれば施しを与える。愛は生活保護を受ける人などなくなるような完全雇用法の制定に努力する。月並みな慈善は、物事があるがままに信心深く受け入れ、不幸な人に援助の手をさし伸べる。けれども、本当の愛は議会へ行き、革新する。

慈善は蠅を打つが愛は蠅を生む堆肥を移させる。

慈善はマラリヤ地帯にキニーネを与えるが愛は低湿地をかかわす。

慈善は戦地に野戦病院をたて、外科医と看護婦を送るが、兄弟愛は停戦に向かわせ

る国際平和主義の確立に奮闘する。

慈善は悪い制度、習慣を神の摂理であると思ひ込み、破滅を気づかいながら、さしたる改善の努力もなく働く。愛は、慣習という名目のもとに守られ、人々に受け入れられあるいは否定されている不正を悪魔のなせるわざと見なし、雄々しく立ち向かう。

人類の持つ最も良い資質は援助や好意や慈善を当てにせず、公正な機会と平等な扱いを望むことです。

ヘンリー・ワーズワース・ロングフェローはこう言っています。

私のわずかな人生が、他人の誤りを見た時、怒るのでなく悲しめと教えてくれた。罪を犯し、苦難に満ちた一人の貧しい心の持ち主の歴史をひもとき、過ぎ去った苦悩、誘惑、短かかった喜び、希望と恐れ、の錯綜、欲望の強制、友人の離散を考える時、私は罪を憎んで友を憎むまい。

教会での管理役員の職、会社での管理職、弁護士あるいは軍隊での指揮官としての地位を得た結果、人を裁き、詰問し、決めつけることも必要だと感じることがあります。そのような場合、同僚や顧問がとがめられている人の生活や罪状について微に入り、細にわたって審議することを主張した時、私自身は、私の人生がスライドを通して写し出されるのを想像して、軽率な判断を避けてきました。そのような時、私はいくたび、「ちり」が「はり」をおさえ、「最初の石」を投げようとして、私にその資格がないことに気づきやめたことがあるでしょう。

S. E. キーサーの想像によると、パラダイスである日、光り輝く二人の天使がお互いに反対方向から金色の通りに沿った琥珀色の歩道を歩いてきました。二人は出会って、お互いの目を見つめると、驚いて手に持っていた琴を落とし、無言で立ちつくしていました。そして、他の天使たちが二人の近くまでやって来ると、二人が同時に、「ねえ、どうやってここに来たんだい」と言うのが聞こえました。

ベンジャミン・ジョンソン博士は、

さらにつけ加えて、「神様御自身は終りの日まで人をお裁きにならないのに、どうして私たちは来たのだろうか」ダンテはこう尋ねています。「汝ら、死すべき体を持てる人よ、汝、いかに裁くかを心せよ」

扶助協会で責任を持つ人々は責任を果たすにあたって、熱烈に狂信しても感傷的に放棄してもなりません。個人の確信と人々の寛容な心を一致させてください。証の精神は兄弟愛を強調していますから、他人の弱点や失敗を寛容な気持ちで見ることが出来ます。

フィリップス・ブルックスはその著書で六種類の寛容をあげています。

第一、全く無関心の寛容。問題になっている発行物も我々に関係がないという理由で無関心の寛容でいることがあります。

第二、政策、方針に対する寛容。人や法令と争っても得るところか失うのを恐れて寛容でいることがあります。

第三、やむをえないという寛容。敵の占領下にあり、抵抗は無駄と考えて寛容であることがあります。

第四、純粹に人を尊敬する寛容。人が悪意を抱くことであってもその権利を尊重し、ボルテールがヘルベティオに宛てた書簡で記しているように、「私はあなたの意見に同意しかねる。けれども、その発言権を奪うことはできない」ことを認めた上で寛容を表わします。

第五、精神的共感に基く寛容。命題が間違っているとしても正しい目的を持っている人に精神的共感を覚えて、寛容を表わすことがあります。

第六、大きな目で真理を見た場合の寛容。真理は人一人が真理について抱く考え以上のものであることを悟れば、たとえそれが自分だけの問題であっても寛容になれます。

第一から三は良くない寛容であり、第四から六は良い意味での寛容です。

「真の寛容とは、真理と人への愛からなっており、真理と人を愛してこそ、完全な寛容が形成され、人々に調和した生活をもたらしてきた」とブルックスは言っています。けれども、こ

れは容易に達成できることではありません。

利己主義、どん欲、産児制限、離婚率の上昇、家庭の破壊、少年非行、安っぽい娯楽、怠惰、しつけの欠如の渦巻く現代において、根本的な価値を探し求めたり、家庭が国家の基礎であって、私たちは母親が性格形成教育の教師であるという事実に関心を寄せなくてはなりません。女性は母親になってこそその真価が発揮されることを国中の若い女性に教えようではありませんか。福音の証を持つ女性は、家庭を築く上で要求される落ち着きや威厳も備えることができます。

母親とは扉に書かれた文字のようなものであり、その扉をくぐって、霊が死すべき人間の世界に入ってきます。またそれは最も高い栄光に入場を許されるための母親の合いことばでもありましょう。

神の御子が頭を下げて扉をくぐり、人間の女性を「母」と呼ばれた時、その文字を神聖なものとしてたたえました。すべての母親が神の御子の証を持ち、御子と共に贖いの業を行なうことはいかに大切でしょうか。

マッケイ大管長はこう述べております。

母親は、神より与えられた創造と犠牲の徳を最も正しく表わす唯一の人である。母親たることは女性を死の淵に追いやることもあるが、命の泉に立たせ霊にこの世の生命を与えるという業を通して創造主と共に働くこともできる。芸術家は空想を現実化し、詩人は未知の考えを表わし、古い服をもっと似合うものにする。技術者は砂漠を豊かな野に変え、町や村を作る。科学者は新しい元素を発見し、各種元素の組み合わせにより、発展または破壊する方法をみ出す。これらすべては、多少なりとも未知のものを明らかにする。しかし、永遠の律法に従う母親は、創造の世界の第一位を占める不滅の霊を世にもたらず。(福音の理想P.656)

啓示により証を受けた人はすべて、啓示を与えたみたまの導きのもとに福音を教える権能を持ち、教えるよう委任され、求められているのです。

ジーナ Y. C. ブラウン姉妹の散文詩「高められた女性」をここで引用したいと思います。

シオンの娘よ、母親よ

あなたは、その偉大な召しに伴う三つの賜を持っている。

失ってはならない

それは純潔と聖い目的という儼なき真珠なのだから。

あなたは自分の立場を知らないのか。

主はあなたを伴侶に与えたもうたが、

あなたは伴侶の下ではなく傍に立っていることを。

あなたは、高められた女性、

許すに早く、あきらめるに遅い、

あなたは女祭司、女王

神に感謝せよ、

あなたがこのように作られ、

女として生まれたことを。

1. フランシス・ベーコン (1561~1626)
英国の政治家、科学者、著作家。
2. アルフレッド・テニソン (1809~1892)
英国の詩人
3. ロバート・ルイス・ステューブソン
(1850~1894) スコットランドの小説家、随筆家、詩人。
4. アブラハム・リンカーン (1809~1865)
米国16代大統領。
5. ラルフ・ワルドー・エマーソン (1803~1882)
米国の随筆家、詩人、哲学者。
6. アリギーリ・ダンテ (1265~1321)
イタリアの詩人。
7. フィリップス・ブルックス (1835~1893)
米国監督大会教師。
8. ボルテール (1694~1778)
ジャン・フランソワ・アロエの雅号、フランスの著作家、哲学者。
9. ヘルベティオ・クロード・アドリエン
(1715~1771) フランスの哲学者。

効果的な伝達方法

十二使徒評議員会

トーマス S. モンソン



救

い主が、「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民に教えよ」との委任を与えられた時に、効果的に伝えるということが非常に大切な責任となりました。この時満ちたる神権時代に福音が回復されて以来、喜ばしい知らせを宣べるために、何百万ドルという費用、計算できないほどの時間と絶えざる努力が費やされてきました。

教会は効果的に伝達するためにデゼレト新聞、インブルーズメント エラ、その他教会の雑誌、ラジオ、テレビ、短波放送等を駆使してきました。

人々に手を差ししのべ、心を動かすという大きな責任は、個人の立場で考えてみますと、もっとはっきりしてきます。以下に、私達が目的を誤った場合のことを考えてみましょう。次に引用するのは、デゼレト新聞からの切り抜きです。

強盗殺人少年

ラスベガス発 (AP)

16歳の少年が三人の銀行員連続殺人事件の真犯人として月曜日有罪の判決を受けた。

少年は銀行支配人および、現金出納係二名を射殺した後、35,000ドルを奪った。

この少年は8歳の時にバプテスマを受け、教会員として確認されていました。彼は日曜学校、初等協会に出席し、アロン神権者でした。少年の属していたワード部の監督は、この殺人事件の記事を読み、悲嘆にくれて、こう言いました。「私達はどこで伝達方法を誤ったのだろう」

伝達とは、単にものを言ったり、聞いたりすることではあ

りません。歴史を通じて、今日ほど多くの人々が、世の中で何が起きているかを知っている時代はありません。伝達という言葉には、意見と感情を交換し、分ち合うという大切な意味があります。コミュニケーションという言葉はラテン語のコムニコすなわち「分ち合うこと」に由来しており、「何かを分ち合う、または分けまえを与える」行為です。

ある定義によると、伝達とは、「他人に知らせ、納得させる方法」とされています。伝達能力は生まれつき持ち合わせているようなものではなく、ある時には苦勞して、学びとるものです。

私達は敵の力に対抗して戦いを挑んだり、教会員を福音の原則に従って生活させようと努力する時、伝達の問題にぶつかります。

人々をよく理解しておられた主でさえ、伝達に関して問題を持っておられたことを聞くと、私達はいささか安心できるような気がします。ある時、イエスは船から対岸に集った大勢の人々に向かって話されました。話の中で、種まきのたとえ話を引用されました。話が終ると弟子達はこう尋ねました。

『「なぜ、彼らに譬でお話しになるのですか」。そこでイエスは答えて言われた、『あなたがたには、天国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていない。』』（マタイ 13:10~11）

そして、イエスはある人々の耳が聞こえず、目が見えないと言われました。救い主は弟子達に向かって、こう言われました。「しかし、あなたがたの目は見ており、耳は聞いているから、さいわいである。」（マタイ 13:16）そして、その他

いくつかのたとえ話を話して説教を続けられました。

たとえ話は天の奥義を理解するために話したと言われたので、恐らく、弟子達は当惑して、イエスの話を再び中断することなどできなかったことでしょう。けれども、群衆が去ると、「弟子たちは、みもとにきて言った、『譬を説明してください』」。(マタイ 13:36)

主が伝達の効果をあげるために繰返し話し、説明する必要があると感じておられたとしたら、私たちが一回で伝達がうまくゆかないとしてもさほど落胆する必要はないと思います。

伝達の効果をあげるには、うまく動機づけをする必要があります。指導者はまず自分自身を教育し、情熱を燃やし、教え(伝達)たいと望んでいる技術を完全に身につけていなければなりません。そして、絶えず心を主題に向け、それを人々も分ち合うまで続けるべきです。これが、最も効果的に動機づけをする方法です。

効果的な伝達には常に三つの要素すなわち、明瞭、簡潔、確実が含まれているものです。

1. 表現を明瞭にする。

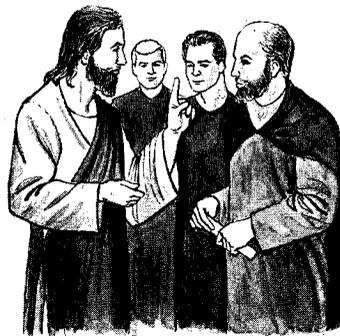
明瞭の第一原則は、明確な目標または目的を持つ、つまり伝達を通じて何を達成したいかを知ることです。自分自身のうちにこの目標をはっきりしておかないと、聞く人々はそれを理解しないでしょうし、動機づけられることもないでしょう。

明瞭を期するためのもう一つの方法は、例を用いることです。言葉の意味は人によってまちまちですから、例を使ってさらに限定すると有効です。

例の一つにたとえ話のような、言葉と行ないによる方法があります。イエスはほとんどいつもたとえ話を用いて教えられました。イエスがあまりたびたびこの教え方を用いるので福音書には、「譬によらないでは語られなかった」(マルコ 4:34)と記されている個所があります。

イエスは、たとえ話は聞く人の信仰と知力の程度に合わせ

て宗教上の真理を伝えることができるので、教えにたとえ話を用いたと述べておられます。教育のない人々にとって、たとえ話は物語としての興味と教えのもつ意味とを備えていました。霊的な人々にとっては、天の王国の奥義や秘密を含めた多くの事柄が伝えられます。このように、たとえ話は単純な人にも学問のある人にも適しており、日常の事柄の中から神聖な真理をすべての人々に教えるものです。



考えを表わすために主は似かよったたとえ話をされました。それを比較してみましょう。

「一人の亡びるのは、全国の民の信仰がなくなって亡びてしまうよりは

よい」(I ニーファイ 4:13)

「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」(マタイ 4:19)

「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」(マタイ 5:15)

「あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである」(マタイ 7:20)

実例の引用には、教える事柄をはっきりさせるといいう一つのすばらしい効果があります。実在の人々や、人々の経験に基づいた話に自分をおきかえて考えることは、簡単です。主はしばしばこのテクニックを用いられました。未亡人の寄付の話で、主は本当に与えるということについて教えておられます。「……あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのだ。これらの人たちはみな、ありあまる中から献金を投げ入れたが、あの婦人は、その乏しい中から、持っている生活費全部を入れたからである」(ルカ 21:3~4)

はっきりさせるには、実話を話すことが最も秀れた方法です。

言葉と行ないを用いた例のもう一つが、実際に行なってみせるデモンストレーションです。特に、機械的な技術を習得させる場合に効果があります。視覚教材の効果的な利用法、運動競技の技術、ワード部神権役員会の進め方などはこの方



法で説明できます。

「百聞は一見にしかず」ということわざがありますが、これを証明する例はたくさんあります。たとえば、母親が子供に祈りを教える場合などがあります。

実物を見せることは、述べようとするをはっきりさせる一つの方法です。これらの実物は周囲の状況や日常の中から求めるか、状況に合わせて話者が作成したものであるべきです。

2. 話は簡潔に。

簡潔とは、少ない言葉で多くを表わすことです。一つの考えを伝えるために費やす時間の長短は、主題の複雑さと聴衆の知識の程度によります。けれども、各々の単語、文章、節に意味をもたせ、目的と関連してこそ、伝達はその効果があがるのです。

簡潔な話をする上でのポイントをあげてみましょう。

- 研究と調査をし、話す価値のある資料を得る。
- 文章の形や良し悪しにとらわれずに、考えが浮かんだら紙に書く。
- 考えを論理的にまとめる。ある場合には、要点、理由、例証、要点といった論理的な公式に資料をあてはめた方がよい。
- 適用しにくく礼を失するような考え、例、ユーモアを避ける。全員の注意を喚起することが困難なため、全く不適切であっても興味をひくだけの資料を話題に入れる人がいる。
- 演題と内容が決まったら、各文章を必要最少限の言葉におさえる。

3. 教えた事が学ばれたことを確かめる。

聞きかじり、間違った解釈、言葉の意味のとり違いが誤解を生みます。ですから、誤った表現の検討、フィードバック、訂正方法をわきまえておくことが大切です。ある労働折衝担当者が労使争議で血がのぼった頭を冷やし、交渉を円滑にする方法を見つけました。労使の代表者はお互いに相手が納得できるように相手の意見を説明するまで、自分の意見を言うてはならないという規則を決めたのでした。

私たちはベンジャミン王と民の模範に注目し、従うべきです。

「さて、ベンジャミン王は以上のように話し終ってから、

民がはたして自分の言葉を信ずるかどうかを知りたいと思って使者を民の中につかわした。すると民は口をそろえて言った『まったく、われらは王の言われた言葉をみな信じ、またその言葉が確に真実であることを知っている。それはわれらの心を非常に改めさせ、悪を行う性質をなくして常に善を行う望みを与えたもうた全能の主の〔みたま〕に由るのである。』（モーサヤ 5:1~2)

主は予言者を通して伝達技術の大切さを述べられました。また、伝達の効果をあげる一要因として、霊性の必要なことを強調されました。

心を開いて、正直でありなさい。私たちは大切な霊を扱っています。詭弁をろうし、不適切な技術を駆使する人は天国にはいません。パウロは、「愛にあって真理を語る」（エペソ 4:15）ことによって伝達しなさいと、会員たちを励ましています。言葉でできないことが感情

でできる場合があります。ですから私たちは愛と関心を人に伝えるべきです。「この『みたま』は、信仰の祈りによりて汝らに与えられる。而して汝らもし『みたま』を受けざる時は教うべからず」（教義と聖約 42:14)

モーセがイスラエルの民を束縛から開放するよう召された時、彼は自分の弱点が話すことまたは伝えることであるのを知っていました。モーセは主のみたまと共にありましたが、主は、何度かモーセを励まされた後、アロンを代弁者として与えられました。しかし、アロンに指導する責任が与えられたのでなく、話すこと以外の指導力を持っていたモーセに責任が与えられました。これらは共に使命を果すに必要なことでした。（出エジプト 4:10)

パウロは私たちが人々に「その徳を高め、彼を励まし、慰める」よう話すには、みたまの賜物を求めなくてはならないと忠告し、さらに明瞭であることは異言の賜物以上に大切であると説いています。「また、もしラッパがはっきりした音を出さないなら、だれが戦闘の準備をするだろうか」（だれが動機づけられるだろうか）「それと同様に、もしあなたが



たが異言ではっきりしない言葉を語れば、どうしてその語ることがわかるだろうか。それでは、空にむかって語っていることになる。」(Iコリント14:3~3 参照)

私たちが主の導きにゆだねて、伝達技術を伸ばそうとするならば、主はふさわしい時に、私たちが信頼を受け、聞こうとする雰囲気の中で正しい人々に向かって、謙遜になり自分自身を表現できるよう助けてくださいます。伝達技術に霊性が伴うならば、主は主の僕らを通じて目的を達成されます。

新しくバプテスマを受けた何十万という教会員と、彼らに福音を教えた多くの宣教師が、効果的な伝達の生きた証し人

なのです。

ある春の一日、真理を知りたいと心から願う一人の謙遜な若者が天父とまみえることを求めました。そして、栄光に満ちた示現と天父の声が聞こえました。「こはわが愛する子なり、彼に聞け」主の御言葉と、その答えである少年ジョセフ・スミスの信仰あふれる奉仕と犠牲とは、最もすばらしい伝達でした。

私たちが効果的な伝達を行なおうと自らの備えをなす時、このうるわしい模範に従って考え、行動できますように。

聖餐の聖句伴奏曲

Darwin K. Wolford



三月聖餐の聖句

大人日曜学校

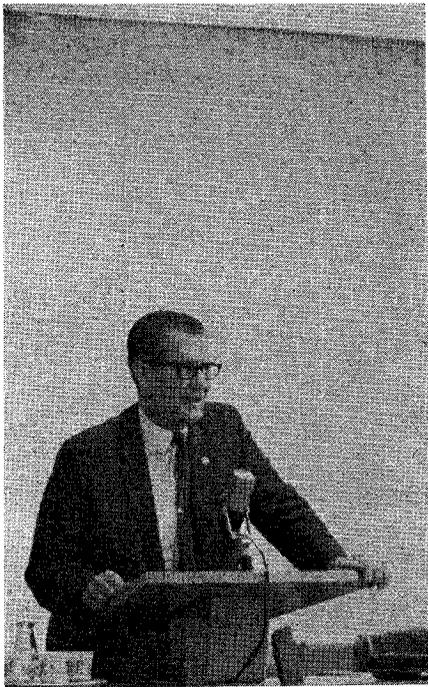
「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。」(ヨハネ 17:3)

子供日曜学校

「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」

(ヨハネ 14:15)

伝道部長メッセージ



日本伝道部長

ウォルター R. ビルス

愛する兄弟姉妹の皆さん。

あなたがた日本の教会員はなんとすばらしい時を迎えたことでしょう。主の使徒が、日本に主の時を訪れると言われて、数々のチャレンジがなされ、目標が設定されたのはつい最近のことでした。今や私たちはその開かれゆくすばらしい時間表を見えています。なんと見事にすべてのことが繰り広げられていくことでしょう。目の前にある美しいバラのつぼみのようにそれはほころび始めています。わずか20カ月前、日本には一つの伝道部しかありませんでした。その後二つの伝道部ができ、今や四つの伝道部と一つのステーク部になるろうとしています。一体だれが主

の御手をとどめることができるでしょうか。

私は予言の成就を眼のあたりにしていることを皆さんと共に喜んでいます。私が宣教師としてハワイに伝道していて、モルモン経から学んだ将来起こるべき事柄について語りあったのはそう昔のことではありませんでした。現在、数々の予言を振り返ってみると、今日がまさしく予言の成就の日であることがわかるのです。日本にできるステーク部はほんの始まりに過ぎません。聖徒たちが自らをととのえて、福音に成長し、指導権をもつにつれて、ステーク部は急速に二つになることでしょう。

神の業は私たちの前に備えられました。私たちのほらからが大阪のモルモン館に臨んで映画や展示を見ると、心中にある数々の疑問が解け、また多くの質問が心に浮んでくるでしょう。みなさんが教会員について尋ねられる時には、必ず彼らが福音を聞きたいのだという確信をもって答えなければなりません。またジョセフ・スミスが神の予言者であり、モルモン経を翻訳したこと、天父なる神とイエス・キリストと会ったことを必ず証してください。もしみなさんが弱いと感じるなら、強くなるように祈ってください。福音が真実であるという証をすればするほどあなたは強くなるのです。

私はイエス・キリストの福音を証しでき、現在みなさんと共にこの日本の地にすることができ、心から深く感謝いたします。

あらゆる人々に驚嘆すべき主の御業を知らせるために、私たちが主の特別なしもべとして共に働くことができますように、私たちは言葉だけでなく行ないによって証をし、天父に近い生活をしましょう。

主の祝福がつねにみなさんと共にありますよう心からへりくだってお祈りいたします。

歴史的

東北, 東中央地方部合同大会



十二使徒補助ブロックバンク長老

2月7, 8日, 東京西支部において十二使徒補助ブロック・バンク長老を迎え, 3月のステーキ部設立を前に最後の地方部大会が開かれた。

1,000名を越す多数の出席者は, 会場に入り切れない人々のために設置されたテレビを通じて参加した。

「汝らひとつとなれ。もしひとつとならずば, 汝らはわがものにあらず。」一教義と聖約38:37-をテーマとして開かれた大会は, ステーキ部を迎えるにふさわしい充実したものであり, 26人の兄弟に大神権が授けられた。話される数々のメッセージは聖徒の証を強め, 勇気を鼓舞した。



ピルス伝道部長



田中東中央地方部長



神谷東北地方部長の司会による午前の大会



菊地第二副伝道部長



1,000名以上の人々を歓迎する姉妹たち



メルケゼデク神権を受ける26名の兄弟たち



会場せましと集った聖徒

☆建築 宣教師資金の献金受ける。

1969年度に、在日米国人の教会員（調布、グランドハイツ、ジョンソン、立川、東京、横浜、横須賀、横田、座間、三沢、千歳）の方々から日本の会員のために建築、宣教師資金として1万ドル（360万円）が寄付されました。いつも日本を思って献身的な働きを示して下さいる皆様に心から深く感謝の意を表します。

ブロックバンク十二使徒補助, スパッフオード扶助協会々長, ジェイコブセンYW・MIA会長をお迎えして



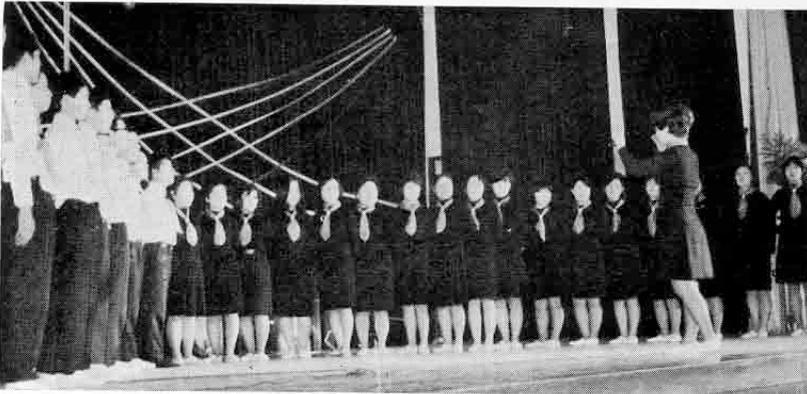
空港での教会幹部たち



2月14日 コーラス・コンテストを楽しまれるお客さま



ジェイコブセン姉妹より
ゴールデン・グリーナー賞を菅本姉妹へ



岡町支部コーラス<音楽コンテスト>

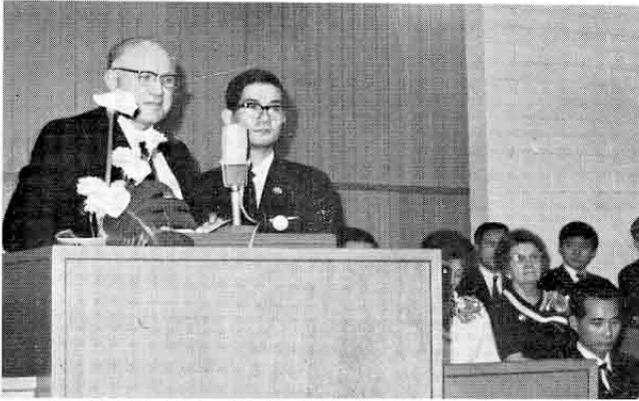


岡町支部フォーク・ダンス デモンストレーション



神戸支部フォーク・ダンスデモンストレーション

近畿大会開かる



午前午後の両大会にて説教されるブロックバンク十二使徒補助



阿倍野支部小村姉妹の手製によるハリ絵人形を贈呈



プライマリー初のきれいなコーラスの披露



シンキングマザーコーラス



ジェイコブセン姉妹を囲んでMIAワークショップ



スパッフォード姉妹を囲んで扶助協会ワークショップ



来る3月13日 午後2時より万国博覧会 モルモン・パビリオンの献堂式がエズラ・タフト・ベンソン使徒により執行されます。

出席を希望される方は支部長よりブロックバンク長老の特別招待状を受け持参することが必要ですので早目にどうぞ。

<写真は開館をまつモルモン・パビリオン>

己れをも許すこと

リチャード L. エバンズ

我々はみな、人生に焦燥と挫折のあることを知っている。時々、悩み、失望し、不満を抱く時に、平安と目的意識、心の落ち着きを失う。これらの挫折感は次のような時にますます深くなる。日々が速く過ぎ去り、なすべきことをなし終えず、時に追われ、それを使い果たし、あわてふためく己を見る時に、また追いつきとりもどす努力の際に、能率が上ったり、下ったり、やり過ぎてよるめく時に、時には元気で、やり過ぎることが多く、また時には意気消沈して、なし終えぬことも多いのを見る時に。そこで今日、我々は自ら求め、無限で永遠な人生の可能性を信じて、落ち着きと平静、忍耐と熟慮、目的を再び思い起こすことを願う。我々すべてが過去を振り返り、現在を直視し、最も永続する価値のあるものに目を向ける時、信仰と共に、悔改め、理解、慈悲、許しの必要を感じる。おお神よ、誠実に生き、人生の道を見出そうとしている他人への悪意のみならず、悪に対して悪で報いる無益さを知らしめたまえ。愛する者にさらに愛と親切を示し、他人をもっとあわれみ、もっと正直に、もっとおだやかに批評し、もっと己れをも許せるようになったまえ。

我々が進歩し、悔改め、他人を許し、主の戒めを守り、健康の法則、幸福の法則、実に人生の法則に従って生きる時に、このようにおだやかに、誠実に生きて、己れをも許すことができる時に、神が生きたまい、生命と愛する者の存在が永遠であり、神の律法と力と目的がすべてに及ぶことを知らしめ、かくして信仰と平安とを見出させたまえ。

* 「スポークン・ワード」1969年8月10日

聖徒の道

1970年3月20日発行

振替口座 東京 16226 番

発行人兼編集人 ウォルター R. ビルス

発行所 東京都港区南麻布 5-8-10

末日聖徒イエス・キリスト教会 電話 (442)7438

印刷所 太陽印刷工業株式会社

定価 100 円

予約 一年間 1,000 円 (外国 4 ドル 50 セント)

電報受信略号 「トウキョウ」 マツジツ